



第1期 羽咋市 スポーツ推進計画

令和8年3月

羽 咋 市

目次

第1章 計画の策定にあたって	1
1-1 スポーツとは.....	1
1-2 計画策定の背景	3
1-3 本計画の位置付け	4
1-4 計画の期間.....	4
第2章 スポーツを取り巻く環境と課題.....	5
2-1 本市の人口推移	5
2-2 本市のスポーツ環境.....	6
2-3 国や石川県のスポーツの動向	10
2-4 運動・スポーツに関するアンケート調査の結果	11
2-5 羽咋市における運動・スポーツの課題のまとめ.....	16
第3章 計画の基本的な考え方.....	20
3-1 基本理念.....	20
3-2 基本目標	21
3-3 施策体系	23
第4章 施策の展開.....	24
基本方針1 スポーツ人口の拡大 する	24
基本方針2 スポーツ活動の振興・啓発 みる	28
基本方針3 スポーツ活動の支援 ささえる・はぐくむ	30
基本方針4 交流人口の拡大・地域活性化・スポーツ環境の整備 あつまる・つながる	32
第5章 計画の実現に向けて.....	34
5-1 計画の推進体制	34
5-2 計画の成果指標・目標値	35
資料編	資料編-1
1 市民アンケート調査結果.....	資料編-1
2 小学生・中学生アンケート調査結果.....	資料編-28
3 スポーツ関係団体アンケート調査結果.....	資料編-41
4 羽咋市スポーツ推進審議会	資料編-44
5 パブリックコメントの実施.....	資料編-47



1-1 スポーツとは

スポーツは、「競技」や「レクリエーション」、「健康づくり」として取り組むことで、豊かな日々を実現するだけでなく、健康増進、介護予防、コミュニティの醸成、高齢・障害福祉、地域活性化、健全な心の育成等の様々な分野における課題解消に期待できます。

本計画では、野球・バスケットボール・サッカー等の競技種目やレクリエーション活動に加え、健康維持を目的とした散歩や体操等の軽度な運動、さらに徒歩や自転車による通勤・買い物等の日常の移動を含む多様な身体活動を「スポーツ」として広く位置付けます。

さらに、スポーツを「する」人だけではなく、家族や友人、スポーツチームの活躍を「みる」人、様々なスポーツを「ささえる」人の活動もスポーツの一部として、それぞれの関わり方を支援していきます。

このようにスポーツを幅広くとらえることで、これまで運動に接する機会が少なかった方にも、無理なく関わりやすい環境づくりを目指します。

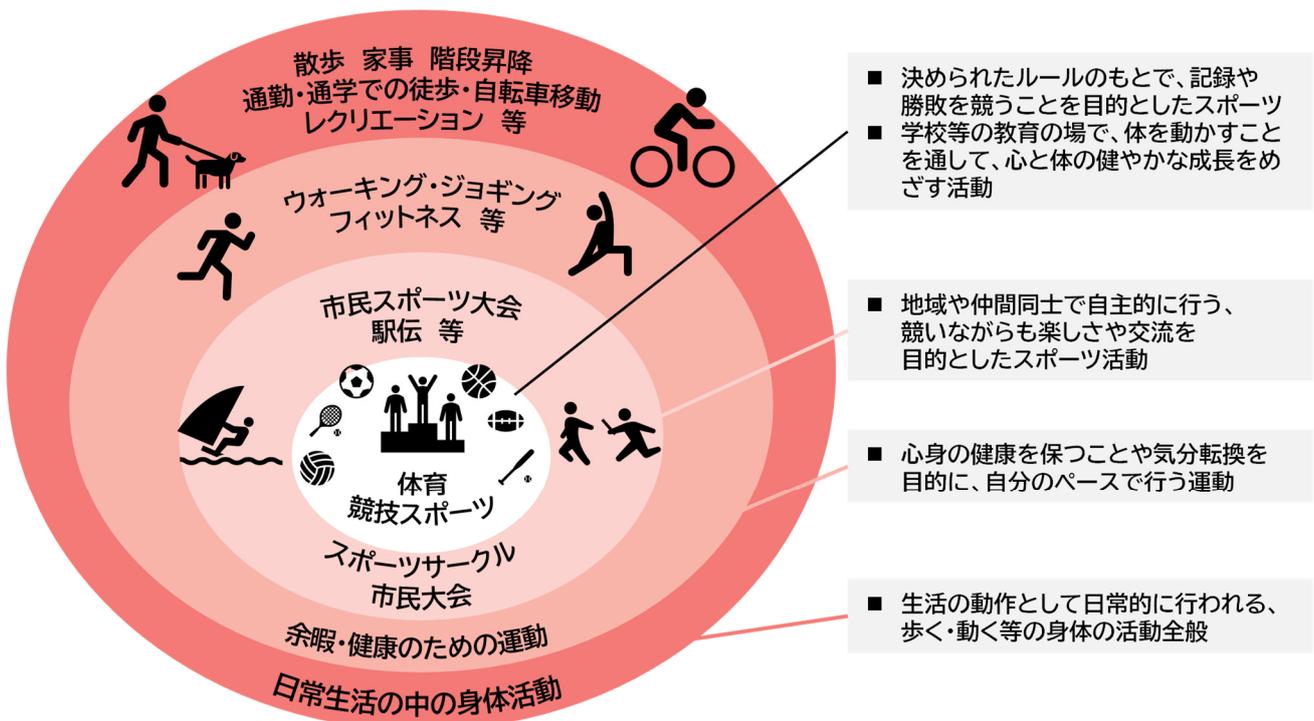


図 ① スポーツの範囲

eスポーツについて

近年、羽咋市(以下「本市」という)でもeスポーツの活動が広がりを見せていますが、国際オリンピック委員会(IOC)の「オリンピック・アジェンダ 2025+5」によると、スポーツ競技をコンピュータゲーム化した「バーチャルスポーツ」とそれ以外の「ビデオゲーム」に区別されますが、一般に、これらを使った対戦競技を総称して「eスポーツ」と呼ばれています。

「日本eスポーツ白書^{※1}」によると、日本のeスポーツ市場は年々拡大しており、市場規模は2019年の約61億円から2023年には約147億円でまで拡大しました。2025年には200億円でまで拡大すると予想されています。さらに、国際交流や地方創生、共生社会の実現等にも寄与しています。

eスポーツは、障害の有無や年齢等を問わず楽しむことができ、スポーツ推進にも効用があると考えられ、高齢者等の健康増進、社会参画に大きく寄与することが期待されています。今後、高齢者等の健康増進等に向けて、身体機能の状況に合わせたeスポーツの拡大が考えられます。

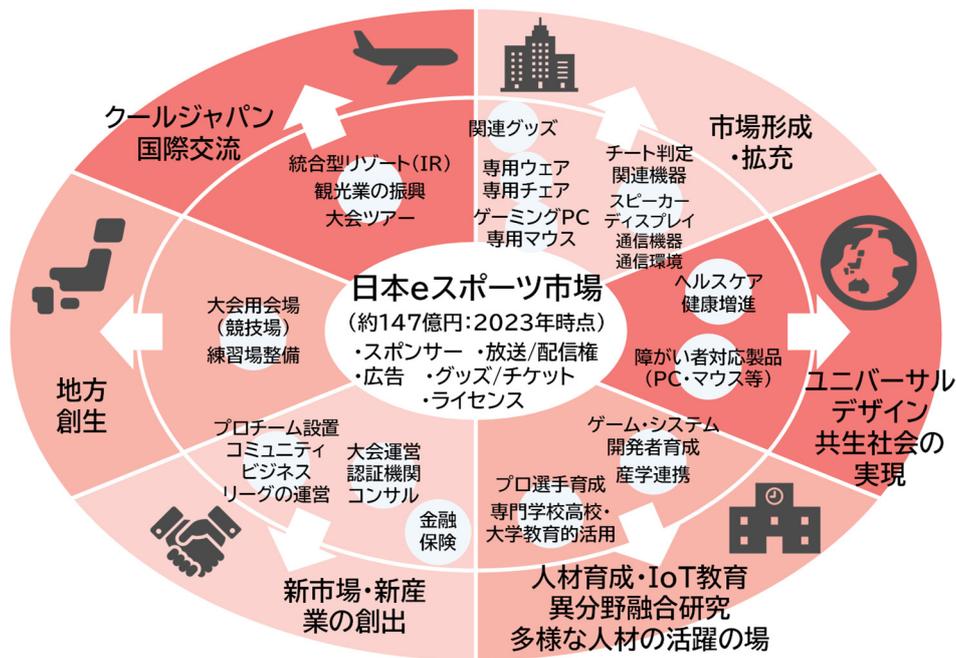


図 ② eスポーツの市場(経済産業省資料より作成)

※1 一般社団法人日本eスポーツ協会「eスポーツ産業の市場規模や今後の予測 市場動向を分析」2025年3月31日掲載 (URL:<https://jesu.or.jp/contents/news/news-250331/>)

1-2 計画策定の背景

わが国は、少子化とともに超高齢社会の進行により急激な人口減少の時代を迎えています。本市の人口は昭和56年(1981年)以降減少を続けており、一方で65歳以上の高齢化率は、平成27年(2015年)国勢調査で36.8%、令和2年推計値では40.9%となっており、令和30年(2050年)には49.6%まで上昇し続ける見込みとなっています。また、若年層(特に女性)の転出による減少や未婚化・晩婚化等により、子どもの数も年々減少(令和元年度出生数113人)しており、今後さらなる少子化が進むことが予想され、移住や健康寿命延伸等の人口減少を和らげるための具体的施策を多面的かつ複合的に講じる必要があります。

こうした社会的背景を踏まえ、本市においては、社会課題に対し総合的な面から解決を図る「輝く羽咋 2.0 プラン」を策定し、その5本柱の一つとして、Vision3「スポーツ・文化を通じた潤い活力あるまちづくり」を掲げ、市民が生涯、活躍できる健康づくりを進めることを方針としています。

自治体としてスポーツの価値を最大限に活かし、市民の健康増進や地域活力の向上につなげていくためには、本市の運動を取り巻く現状と課題を踏まえた総合的かつ計画的な取組方針を明確にする必要があります。そこで、今後のスポーツ施策の方向性を示し、行政、関係団体、地域住民が共通認識を持ちながら推進していくための指針として、「スポーツ推進計画」を策定します。

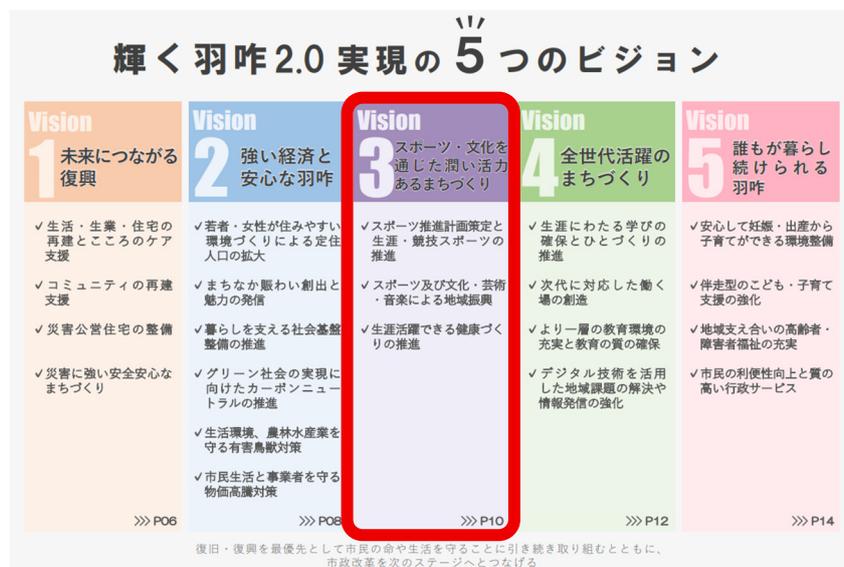


図 ③ 輝く羽咋 2.0 プランの5つのビジョン

【用語説明】 超高齢社会とは？

WHO(世界保健機関)および国連の定義によると、65歳以上の高齢者が総人口に占める割合が21%を超えた社会は、「超高齢社会」と位置付けられています。この21%という水準は、高齢化社会の基準とされる高齢者割合7%の3倍に相当するものです。わが国においては、2010年に高齢化率が23%を超え、超高齢社会に移行しました。

1-3 本計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法第10条第1項の規定に基づく「地方スポーツ推進計画」で、本市がスポーツを推進していくうえで目指すべき施策の方向性や取り組みを体系的に示すものです。

計画の策定に当たっては、国の「第3期スポーツ基本計画」と「石川県スポーツ推進計画 2021」を参考に、「第6次羽咋市総合計画」に掲げられている「まちづくりにおける施策」を踏まえ、本市の関係する各種計画との連携を図ります。

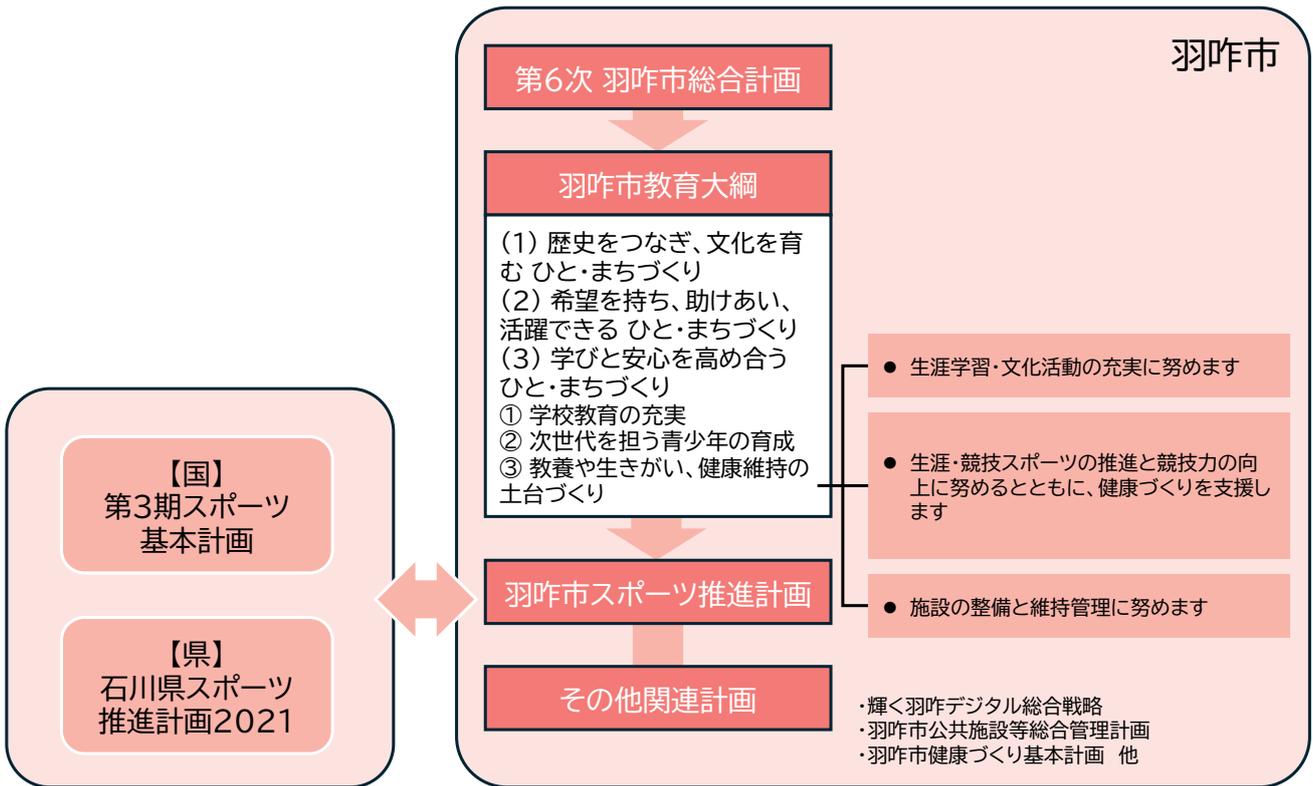


図 ④ 計画の位置付け

1-4 計画の期間

本計画の計画期間は、令和8年度(2026年度)から令和12年度(2030年度)までの5年間を基本とします。

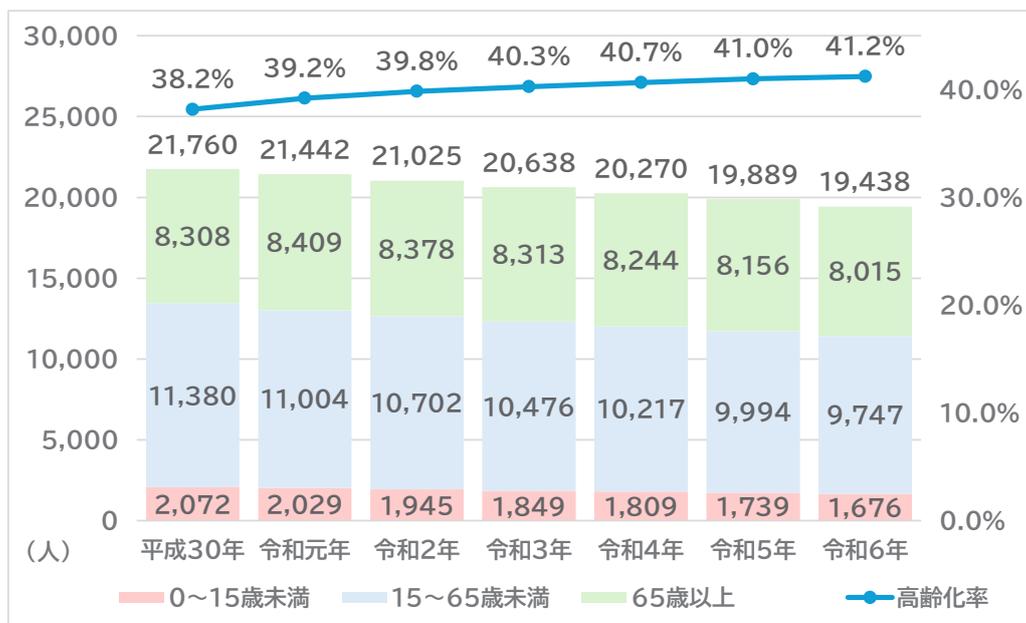


2-1 本市の人口推移

本市の総人口等の推移をみると、総人口は平成30年の21,760人から令和6年には19,438人へと一貫して減少傾向にあります。一方、65歳以上の高齢者人口は令和2年より減少傾向がありますが、高齢化率は増加傾向にあり、令和6年で41.2%と約4割となっています。

年代別にみると、高齢者人口の推移は令和6年で前期高齢者が3,095人、後期高齢者が4,943人となっており、後期高齢者が61.7%を占めています。一方、子ども(0～15歳未満)の数及び生産年齢人口(15～65歳未満)の数は高齢者の減少数よりも大幅に減少しています。

国立社会保障・人口問題研究所では、2040年には老年人口(65歳以上)が生産年齢人口を上回り、超高齢化社会になると予想されます。また、2020年と比較し、2050年は5割程度(11,063人)まで人口が減少し、消滅可能性都市となると予想されています。



図⑤ 人口の推移
(出典:羽咋市統計書)

【用語説明】 消滅可能性都市とは？

日本生産性本部に設置された「日本創生会議」によると、2010年から2040年までの間に、20～39歳の若年女性人口が50%以上減少すると推計される市区町村は、「消滅可能性都市」とされています。2010年時点の全国1,799自治体のうち、896自治体が該当し、将来的に地域が消滅する可能性があるとして指摘されています。民間有識者のレポートによると、2024年時点では744自治体が該当しています。

2-2 本市のスポーツ環境

(1) スポーツ施設

令和6年能登半島地震の影響により令和7年時点で利用できない施設が2か所ありますが、本市では公共スポーツ施設を12施設、保有しています。そのほか、市立小学校及び中学校を地域開放し、生涯学習の場として体育館等を利用することができます。



図 ⑥ 本市のスポーツ施設

■本市のスポーツ施設の位置

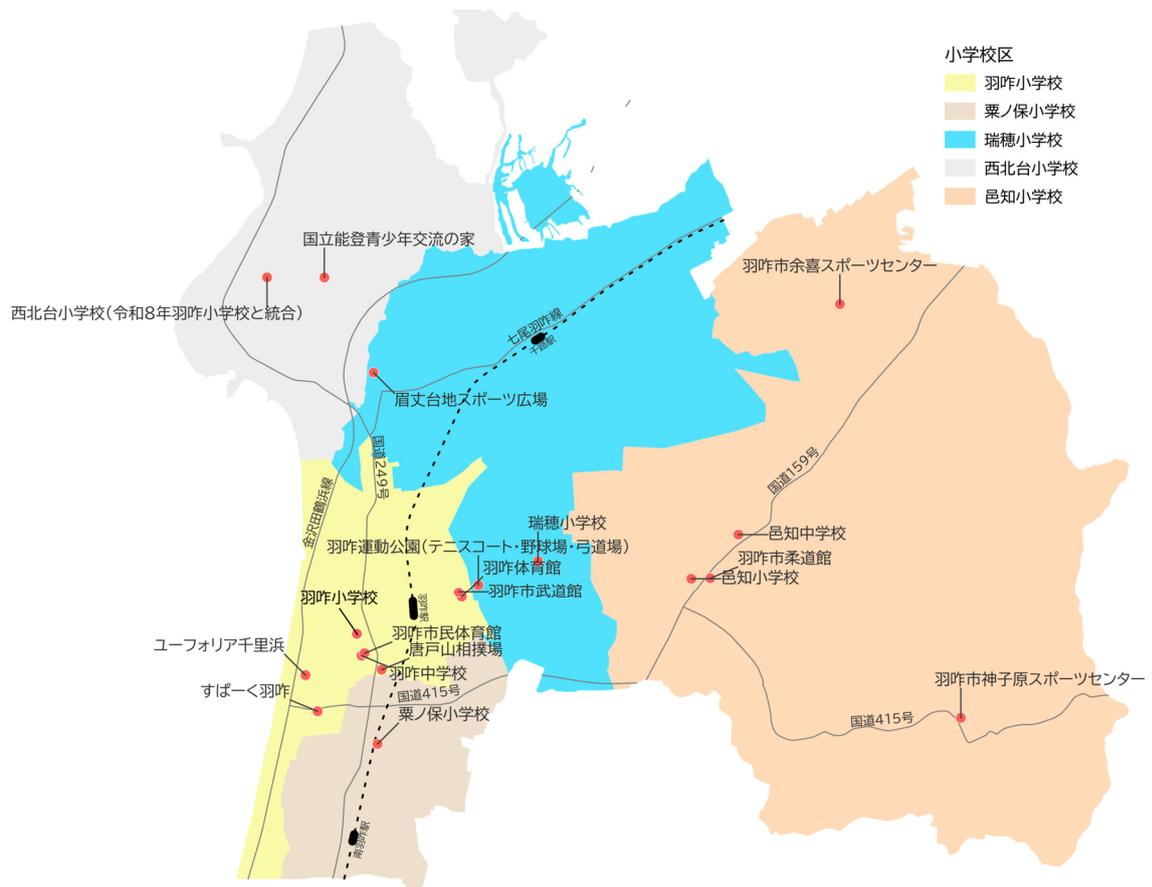


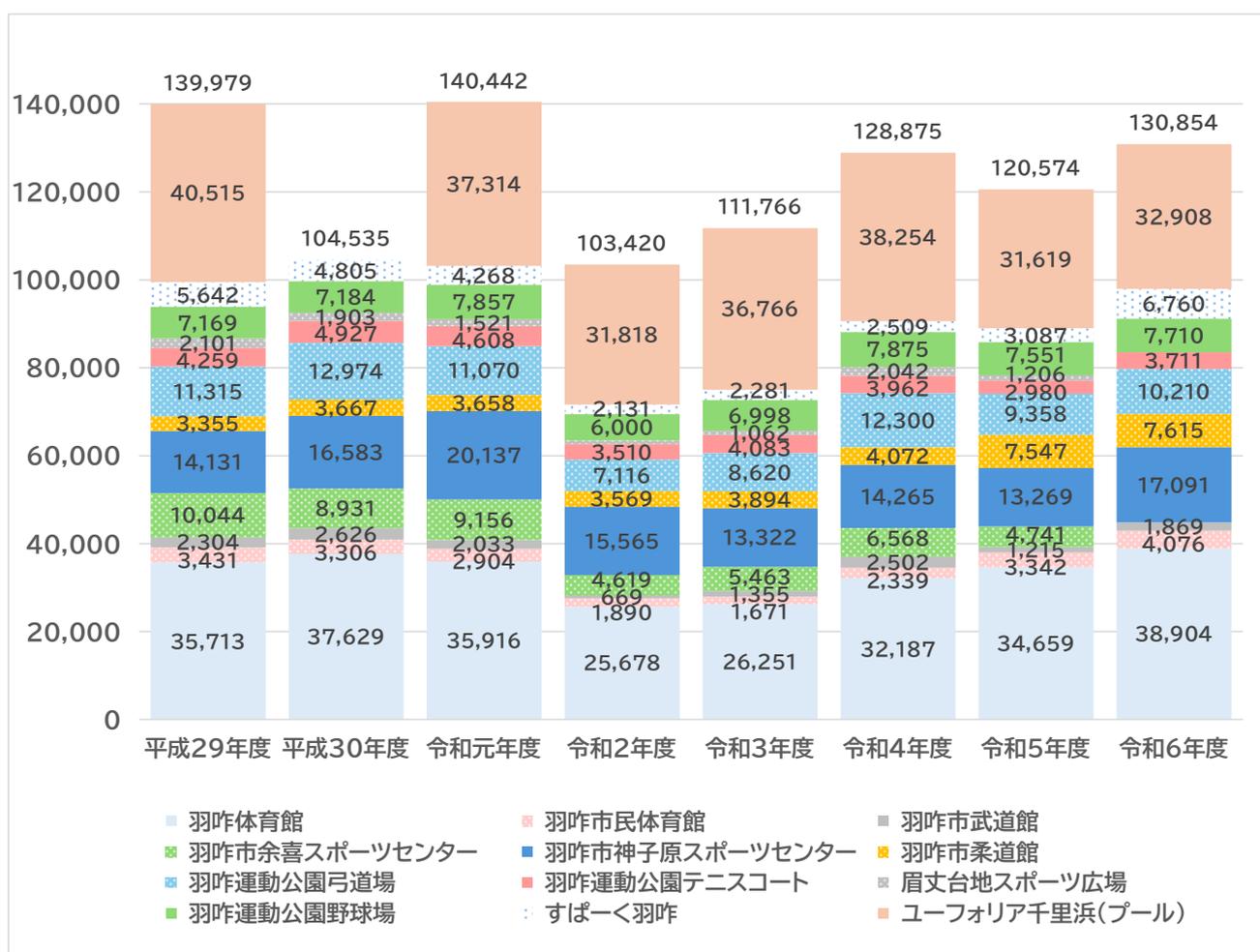
図 ⑦ スポーツ関連施設の立地



(2)スポーツ施設の利用者数

本市のスポーツ施設利用者数は、令和2～3年度に猛威を振るったコロナ禍、令和6年1月(令和5年度末)に発生した能登半島地震の影響で各施設とも大きく減少しました。しかしながら、全体としてはコロナ禍前の水準に近づく形で回復傾向にあります。

個別にみると、羽咋体育館及びユーフォリア千里浜(プール)の利用者が毎年3～4万人であり、どの年度でも最大の構成比となっています。令和6年度と令和元年度を比較すると、羽咋体育館や羽咋市民体育館、すぱーく羽咋、羽咋市柔道館は利用者数を伸ばしています。一方で、神子原スポーツセンターや羽咋運動公園テニスコート、ユーフォリア千里浜(プール)は利用者数の回復が伸び悩んでいます。



図⑧ 施設利用者数の推移

(出典:羽咋市統計書 ※平成30年度ユーフォリア千里浜のプール利用者数の統計値不能)

(3)スポーツイベント

本市で開催される主なスポーツ大会として、本市を代表するスポーツイベントである「羽咋市民スポーツ大会」をはじめ、「市民駅伝祭」、「千里浜ビーチバレージャパンチャレンジ」等を毎年実施しています。

また、令和4年度からeスポーツの理解や普及に向けた事業に取り組み、その一環として令和6年度から『eスポーツ大会「LAKUNA HAKUI CUP STREET FIGHTER 6」』を開催しています。



図 ⑨ スポーツ大会

(4)高齢者へのスポーツ機会の提供

本市の介護予防事業の一環として、高齢者自身の身体機能向上と転倒・要介護予防を目的とした「筋力トレーニング教室」を公民館・町会館等の 19 会場 21 教室で毎週実施しています。

また、老人福祉センターで「eスポーツ教室」を実施する等のフレイル(心身の機能低下状態)予防にも取り組んでいます。



図 ⑩ 筋力トレーニング教室・eスポーツ教室

2-3 国や石川県のスポーツの動向

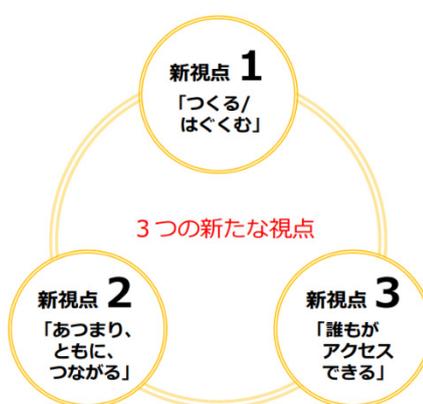
国は平成 23(2011)年にスポーツ基本法が施行されてから、平成 24(2012)年にスポーツ基本計画の策定、平成 27(2015)年にスポーツ庁が設置されています。スポーツ基本法は2回改訂を行っており、令和4(2022)年に策定された「第3期スポーツ基本計画」が現行の国の計画となっています。

石川県は令和2年度までは平成28年3月に策定した「第2期石川の教育振興基本計画」におけるスポーツ分野を県のスポーツ推進計画として位置付けていました。その後、石川県スポーツ推進審議会での検討を踏まえ、スポーツ分野に特化した「石川県スポーツ推進計画 2021」が新たに策定されました。

第3期スポーツ基本計画(令和4年度策定)

第1期では、「年齢や性別・障害を問わず、広く多くの人々が関心・適性に応じてスポーツに参画することができる環境を整備する」を基本方針に、第2期では、「スポーツ参画人口」を拡大し、「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むことが示されました。

第3期では大きく2つのポイントが掲げられました。一つ目は、東京2020オリ・パラ大会のスポーツ・レガシーの継承や発展、二つ目は、国民がスポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できる社会を目指すために、右に示す新たな3つの視点が掲げられました。



石川県スポーツ推進計画2021(令和2年度策定)

「生涯にわたるスポーツ活動の推進」「競技スポーツの充実」「スポーツを通じた地域の活力向上」の3つを基本施策として掲げています。運動習慣の定着や県内トップスポーツチームと連携した地域振興等のスポーツが持つ多様な効果を生かしながら、総合的・計画的に施策を展開していくこととしています。

2-4 運動・スポーツに関するアンケート調査の結果

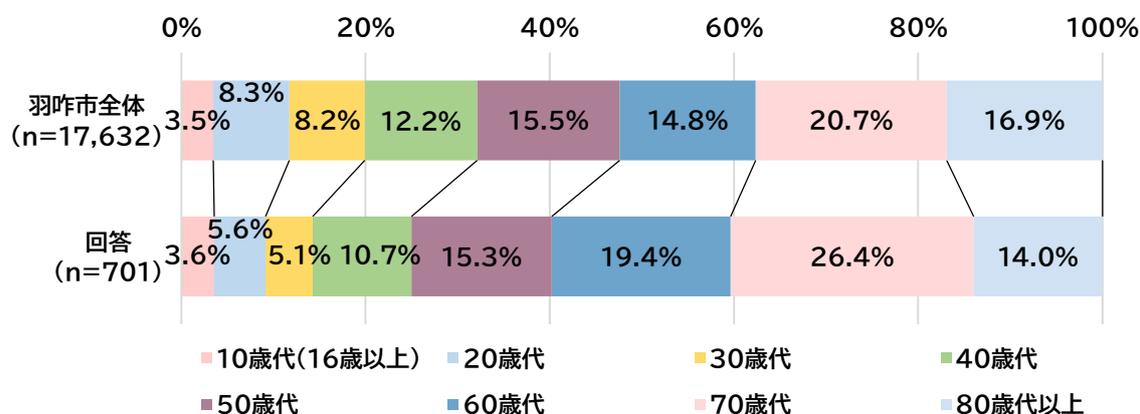
市民のスポーツに対する意識やスポーツの実施状況、ニーズ等を把握するために、アンケート調査を実施しました。

(1) アンケート調査概要

	①市民アンケート調査	②小中学生アンケート調査	③関係団体アンケート調査
調査対象者	市内在住の市民 (16歳以上)	市内小学校5年生 市内中学校2年生	市内スポーツ各種協会 障がい者関連団体
調査方法	郵送配布 郵送回収+WEB 回答	学校配布 タブレット端末による回答	郵送配布 郵送回収
調査期間	令和7年(2025年) 8月1日~8月20日	令和7年(2025年) 7月16日~8月12日	令和7年(2025年) 9月12日~9月30日
配布数	2,000件 (有効母数 1,990件)	小学5年生 135名 中学2年生 128名	31件
回収件数	722件 (うち WEB177件)	小学5年生 114件 中学2年生 128件	16件
回収率	36.3%	小学5年生 84.4% 中学2年生 100%	51.6%

(2) 市民アンケート調査回答者の年齢構成

本市の年齢構成と比較して、アンケート調査の回答者は60歳代、70歳代が多い結果となりました。

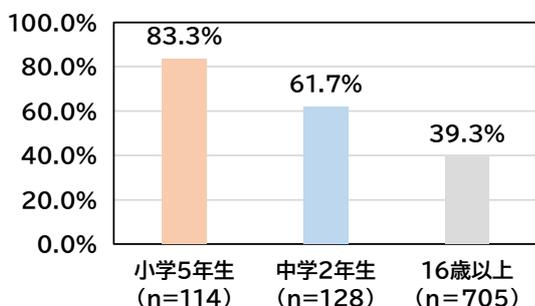


(3) アンケート調査結果からみる現状

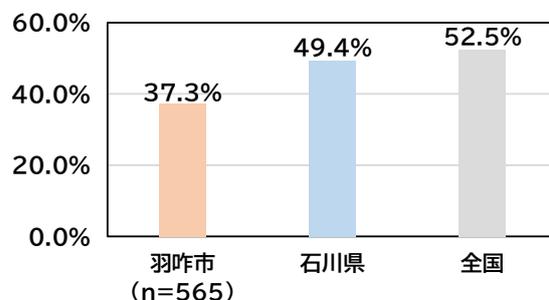
①この1年間で市民の運動・スポーツの実施状況

- 週1日以上(1回あたり30分以上)運動・スポーツをした16歳以上の割合は39.3%となっています。20歳代から70歳代に絞ると37.3%で、全国・石川県を大きく下回っています。特に女性や30～60歳代の実施率が低くなっています。
- 小中学生では、体育の授業や部活動を除いて週1日以上(1回あたり30分以上)運動・スポーツをした人の割合は、小学5年生が83.3%、中学2年生が61.7%となっています。特に中学2年生の女子は56.9%であり、小学5年生から著しく低下しています。

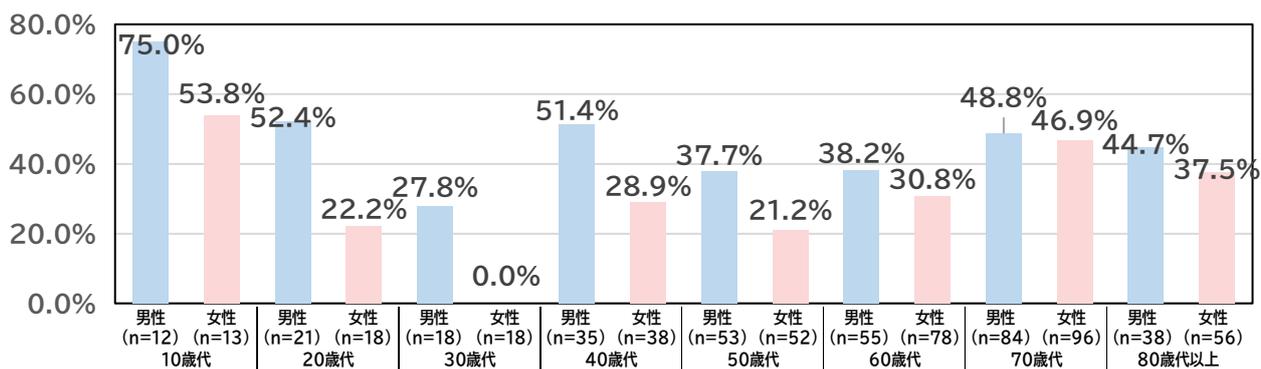
■週1日以上スポーツをする人の割合
(羽咋市)



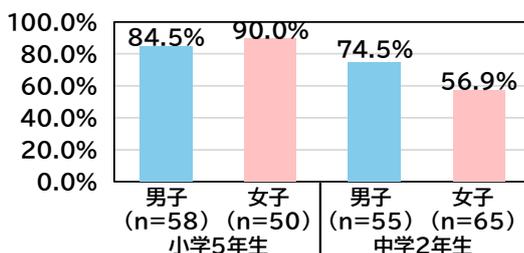
■週1日以上スポーツをする人の割合
(20～70歳代比較)



■【年代・性別】この1年間にスポーツをした人の割合(羽咋市 16歳以上)

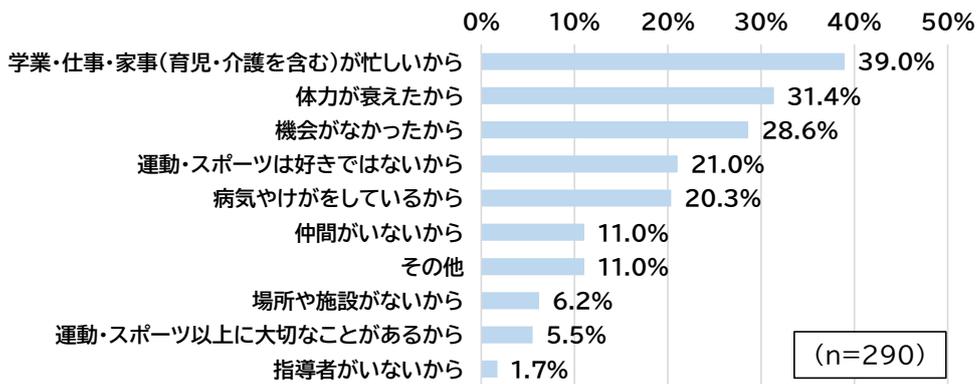


■【学年・性別】学校の授業や部活動以外でスポーツをしている子どもの割合(小中学生)



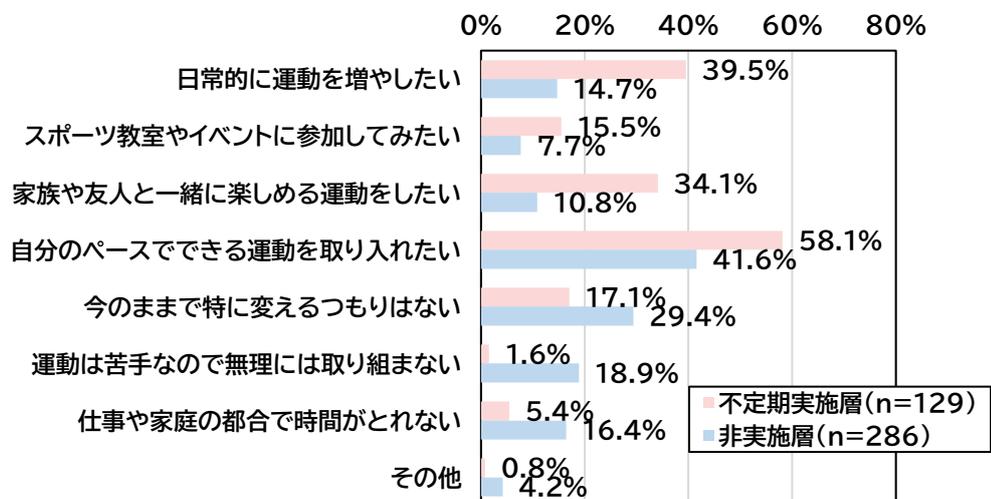
②この1年間で運動・スポーツをしなかった理由

- この1年で運動・スポーツをしなかった理由をみると、「学業・仕事・家事が忙しい」、「体力の衰え」と回答した人の割合が高く、各年齢層においてスポーツができない要因が異なります。
- また、「機会がなかった」や「運動・スポーツが好きではない」の割合も高くなっています。



③今後の運動・スポーツの実施への意欲

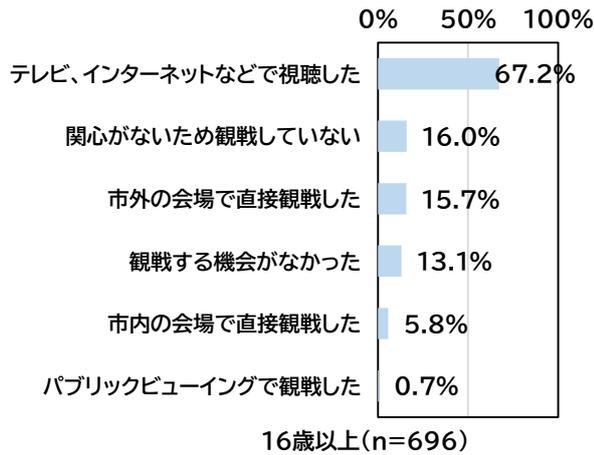
- 不定期実施層(週1日未満でスポーツを実施した人)の運動への意欲をみると、「自分のペースでできる運動を取り入れたい」や「日常的に運動を増やしたい」、「家族や友人と一緒に楽しめる運動を取り入れたい」の割合が高く、運動への意欲は高いと考えられます。
- 非実施層(この1年間で1日も運動したことがない人)の運動への意欲をみると、「自分のペースでできる運動を取り入れたい」の割合が高くなっています。一方で「今のままで特に変えるつもりはない」や「運動は苦手なので無理には取り組まない」の割合が高く、運動への意欲が低くなっています。



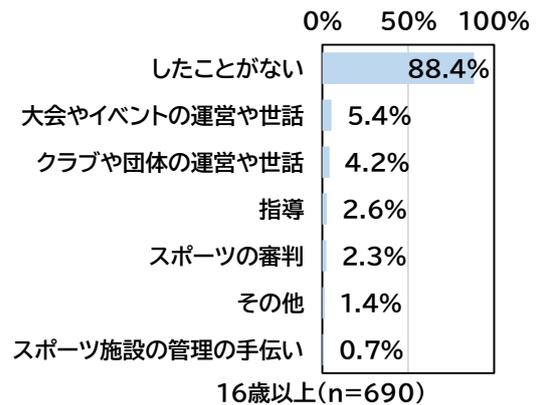
④スポーツの観戦・ボランティア活動について

- この1年でスポーツを観戦した場所は「テレビ、インターネットなどでの視聴」の割合が最も高くなっています。また、市内の会場よりも市外の会場での観戦が高くなっています。一方で「観戦する機会がなかった」や「関心がないため観戦していない」の割合の高さも目立っています。
- この1年でスポーツに関するボランティアを行わなかった16歳以上の割合は88.4%となっています。

■この1年間のスポーツの観戦状況

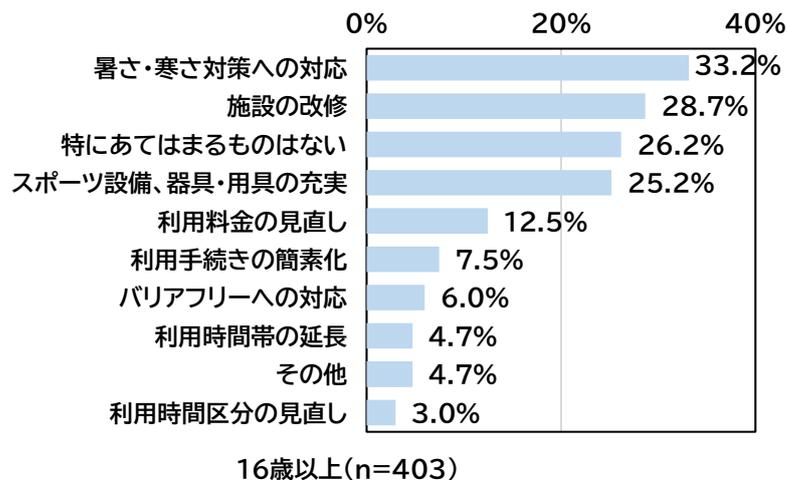


■この1年間のボランティア活動への参加状況



⑤スポーツ施設に対する要望

- 本市のスポーツ施設への要望として、「暑さ・寒さ対策への対応」や「施設の改修」、「スポーツ設備、器具、用具の充実」の割合が高くなっています。



⑥スポーツ団体における課題

- 「競技人口の減少」及び「会員数の減少」という意見が最も多く、その中でもジュニア世代の競技人口の減少が大きな課題となっています。
- また、「指導者継承」や「全国レベルの指導ができる指導者の不足」の問題があり、プレイヤーの育成環境が悪化していることが課題となっています。
- その他、各種大会の継続に向けた大会参加者の維持・増加も課題となっています。

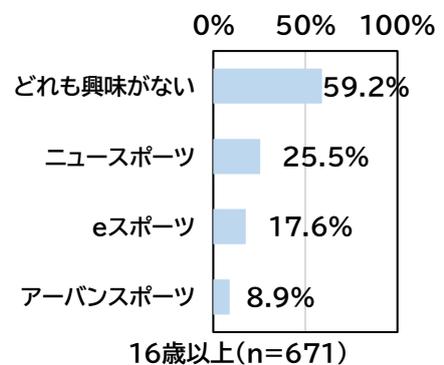
【団体の課題(関係団体アンケート調査より)】

- ✓ 少子高齢化による競技人口の減少
- ✓ 協会の会員が減少しているので、会員が増えるような活動をしていきたい
- ✓ 女性の会員を増やしたい
- ✓ 若い女性、ジュニア世代が全くいない
- ✓ 大会等への参加人数集めが大変
- ✓ 小学校で全国出場レベルの選手がいても、中学校で精神的・技術的に伸ばしてくれる指導者がいない
- ✓ なくなってしまった大会を規模を縮小して再開してほしい

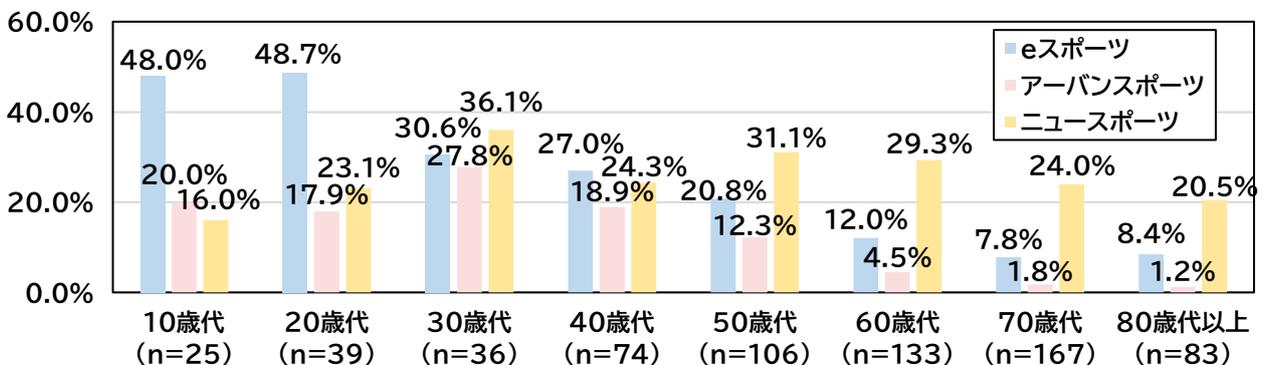
⑦新たなスポーツへの関心

- 「eスポーツ」、「アーバンスポーツ」、「ニュースポーツ」への関心について、「どれも興味がない」と回答した人の割合が約6割となっています。
- 年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「eスポーツ」に関心のある人の割合は下がる傾向にあります。
- 高齢者はeスポーツやアーバンスポーツへの興味が低いですが、ニュースポーツには一定の興味を示しています。

■新たなスポーツへ興味がある人の割合(16歳以上)



■【年齢別】新たなスポーツへ興味がある人の割合(16歳以上)



2-5 羽咋市における運動・スポーツの課題のまとめ

誰もがスポーツに触れる機会を持ち、生涯にわたり楽しめる環境について

課題①

習慣的な運動の実施

- 羽咋市民の週1日以上スポーツ実施率は、国や石川県と比べて低い状況にあります。特に30歳～60歳代の働き手世代での実施率が低く、男女差では女性の方が男性よりも低い傾向がみられます。
- 不定期実施層(週1日未満で運動をする人)では、「自分のペースでできる運動を取り入れたい」等の意欲がみられます。一方で、非実施層(まったく運動をしていない人)では、「今のままで特に変えるつもりはない」等の運動への意欲の低さが伺えます。

課題②

各年齢層に合わせたスポーツ活動の推進

- 年齢が上がるにつれ、体力の衰えや病気・けがを理由に運動を実施できない人が増えています。一方で、60歳代以下では、仕事や学業、家事等で多忙なために運動の時間を確保できていない傾向がみられます。特に女性では、30～60歳代における運動実施率が低く、家庭や育児等の負担も影響していると考えられます。
- 子どものスポーツについては、女子は中学生になると授業や部活動以外でのスポーツ実施が著しく低下する傾向がみられ、学校外でのスポーツ機会の減少が問題となっています。
- 福祉団体からは、障がいのある人がスポーツに参加しにくい現状が指摘されています。

本計画では、

基本目標1

スポーツ人口の拡大

POINT
する

における施策を通して、課題に対応していきます。

スポーツの魅力を知る機会の創出について

課題③

スポーツ観戦の推進

- スポーツ観戦をする際に、市内会場よりも市外会場に行く人が多い傾向にあります。本市においては都市と比較するとトップスポーツの試合や大会の開催は少ないという現状があります。遠くへ行くことができない人に対して、家の近くでもスポーツが観戦できる機会の提供を図ります。
- スポーツ観戦をしなかった理由として、「観戦する機会がなかった」と回答した人も少なくなく、多様な形態でスポーツ観戦の機会の提供を図ります。

課題④

スポーツに関する情報発信

- 市内のスポーツ活動の推進にあたり、スポーツに関連するイベントの情報発信が不足しています。また、スポーツ観戦をしなかった理由として、「観戦する機会がない」、「関心がない」と回答した人が少なくなく、多くの層に情報が伝達されるように、多様な手段でプロモーション等の情報発信の強化を図り、スポーツ活動の啓発を進めます。
- 地域スポーツ団体は活動が市民に認知されていないと感じており、競技人口拡大に向けて各団体と連携した情報発信が求められます。

本計画では、

基本目標 2

スポーツ活動の振興・啓発

POINT
みる

における施策を通して、課題に対応していきます。

スポーツを支える活動について

課題⑤

スポーツ団体会員数・競技人口の減少

- 地域スポーツ団体について、会員数の減少や競技人口の減少が課題となっています。特に、少子高齢化の進行により若年層の参加者が減少している一方で、働き手世代のクラブへの所属が少なく、競技スポーツと習慣的な運動の両面でスポーツの実施の低下が見られます。
- プレイヤー同士の交流や競技レベルの向上を図るための大会運営の継続も課題となっており、安定的に大会を運営できる仕組みづくりが求められています。
- 本市の部活動においても、少子化の進行や教員の働き方改革を背景に、従来のように学校内で教員が中心となって部活動を運営する体制の維持が難しくなっています。生徒数の減少により、単独校でのチーム編成が困難な種目もみられる等の学校部活動の持続可能性が課題となっています。

課題⑥

指導者・ボランティアの育成

- スポーツ機会の提供や地域内の交流促進、部活動の地域展開を進めるにあたり、受け皿となる地域クラブ等で活動できる指導者が不足しています。また、競技スポーツとして技術的・精神的に高いレベルで指導できる指導者も不足しており、質・量の両面で課題が表面化しています。

本計画では、

基本目標 3

スポーツ活動の支援

における施策を通して、課題に対応していきます。



スポーツによる交流人口の拡大や地域活性化、利便性向上について

課題⑦

新たなスポーツへの関心度向上

- 市民の新たなスポーツへの関心について、「eスポーツ」「アーバンスポーツ」「ニュースポーツ」のいずれにも興味がない市民が多く、全体的に関心度は高くない状況です。特に本市が力を入れている分野でもある「eスポーツ」については、年齢が上がるにつれて興味が低下する傾向がみられ、若年層を中心とした限定的な広がりにとどまっています。

課題⑧

スポーツ施設の利便性向上

- スポーツ施設に対する要望としては、「暑さ・寒さ対策」や「老朽化への対応」等が挙げられています。特に、空調設備が整っていない体育館や地域で利用される公民館においては快適な運動環境の確保が課題となっています。また、震災の影響により、一部の施設が使用できなくなっており、利用可能な施設の選択肢が限られている状況です。

課題⑨

スポーツによる交流促進の推進

- 今後のスポーツへの意欲について、特に働き手世代において「家族や友人と一緒に楽しめる運動を取り入れたい」という方が多くなっています。一方で、スポーツ振興に向けて羽咋市に期待することとして、「スポーツを通じた交流の促進」を回答した方は少なくなっており、市民のスポーツ実践と交流促進が十分に結び付いていない状況が伺えます。

本計画では、

基本目標 4

交流人口の拡大・地域活性化・スポーツ環境の整備



における施策を通して、課題に対応していきます。



3-1 基本理念

みんながスポーツに親しみ

健康で活気あるまち はくい

スポーツは、私たち一人ひとりの心身の健康と豊かな生活に不可欠な要素です。さらに、スポーツを通じた交流を活性化することは、地域に活力をもたらし、生き生きとした「まちづくり」の実現につながります。また、スポーツの力はウェルビーイングの向上や多様な社会課題の解決に活かすことができます。

しかし、本市では、国や県と比較して成人のスポーツ実施率が低いという課題があります。この状況を克服し、市民誰もが幸せになることができる持続可能なまちを目指すという、市の最上位計画である第6次羽咋市総合計画の将来都市像『「はぐくもう #はくいびと」、「くらしてほっと きてほっと」、「いざ！チャレンジ #HOT 羽咋」』を実現するため、本計画を策定します。

本市が持つ緑の山々、美しい海、豊かな自然という恵まれた環境を最大限に生かし、「はくい」らしいスポーツライフを推進します。市民一人ひとりがスポーツを「する」、「みる」、「ささえる・はぐくむ」ことができるよう、そしてスポーツで「あつまる・つながる」ことができるよう、これら4つの視点から施策を推進し、誰もが健康で心豊かに過ごし、地域に活気ある交流が広がる未来を目指します。



羽咋市の自然を代表する千里浜と邑知潟

【用語説明】 ウェルビーイングとは？

ウェルビーイング(Well-being)とは、身体的・精神的・社会的に満たされ、幸せを感じている状態を指し、単なる病気でないこと以上の持続的で良好な状態を意味します。世界保健機関(WHO)憲章で提唱され、近年ではSDGsや企業の働き方改革、国の政策でも重視され、物質的な豊かさだけでなく心の豊かさや生活の質(QOL)を重視する考え方として注目されています。

3-2 基本目標

前章で示した市が抱える課題を解決するとともに、基本理念である「みんながスポーツに親しみ 健康で活気あるまち はくい」を実現するため、施策を展開する方向として、4つの基本目標を掲げ、本市のスポーツ推進を図ります。

基本目標1

スポーツ人口の拡大

POINT
する

年齢や性別、ライフスタイル、障害の有無にかかわらず、生涯にわたって「するスポーツ」に親しむことができる環境づくりを推進していきます。また、羽咋市民のスポーツ実施率向上と習慣定着を目指し、「自分のペースで」無理なく運動を取り入れられる仕組みづくりを進めます。

運動習慣がない人や運動への意欲が低い人には、身体を動かすきっかけとなる地域参加型の取り組みや交流の場を充実させ、習慣化を図ります。また、子ども等のスポーツ離れを防ぐため、楽しみながら続けられる多様なスポーツ体験を提供し、成長段階に応じた運動機会を確保します。

さらに、誰もが安心して参加できるよう、障がい者スポーツの体験機会の増加や高齢者の健康増進に向けた運動教室の開催等、活動の受け皿となる地域スポーツ団体の取り組みを含めて、体力や環境に応じたスポーツ機会を確保します。

基本目標2

スポーツ活動の振興・啓発

POINT
みる

市民のスポーツ活動への関心を高めるため、「みるスポーツ」の機会の充実と情報発信の強化を推進します。従来の運動・競技スポーツに加え、eスポーツやニュースポーツ等の多様なスポーツの価値や魅力を広く市民に伝える情報発信を強化します。

具体的には、体験イベントや講座等を通じて、誰もが気軽にスポーツに触れる機会を増やすとともに、市民の関心を高めるため、プロスポーツ団体の試合観戦機会の確保や、スポーツイベント、地域スポーツ団体の活動・宣伝等の情報を多角的に発信します。これにより、市民のスポーツへの関心度を向上させ、スポーツを「観戦し、知り、応援する」機会の創出を通じて、市民の健康増進や交流促進を図ります。また、これらの活動が身体や心の健康に与える良い影響を周知し、市民のスポーツ参加意識の醸成につなげます。

基本目標3

スポーツ活動の支援



指導者・ボランティアの安定的な確保を目指し、持続可能で質の高い指導・支援体制の構築を進めます。

地域スポーツ団体における会員数及び競技人口の減少、部活動運営の持続性の低下等の課題を踏まえ、地域全体で「ささえるスポーツ」の環境構築を推進します。大会運営の安定化や部活動の地域展開を進めるとともに、指導者及びボランティアが継続的に活動できる体制を整備し、質の高い指導及び参加機会の確保を図ります。また、研修会等への参加支援や報奨制度の活用により、指導者や担い手を育成・確保する「はぐくむスポーツ」の取り組みを充実させ、競技力向上とスポーツ人口拡大の双方を実現する持続可能な地域スポーツ基盤の形成を目指します。

基本目標4

交流人口の拡大・地域活性化・スポーツ環境の整備



スポーツが持つ人が集まる機会を創出する「あつまるスポーツ」と、人と人がつながる関係性を育む「つながるスポーツ」の役割を最大限に活用し、地域全体の活性化を図ります。

地域住民が交流できるイベントやスポーツ合宿等を支援することで、スポーツを手段とした交流人口の拡大を推進します。特にeスポーツ等の新たなスポーツの要素をイベントや交流事業に取り込むことで、若者や多様な世代間の交流を促進し、地域に新たな活力を生み出します。また、これらの交流を支える基盤として、体育館アリーナの空調整備や予約システムの改善等のスポーツ施設の整備により、安全で利便性の高い環境を整えることで、誰もが安心して利用し、交流できる拠点づくりを進めます。これにより、スポーツを核とした地域の一体感の醸成と持続可能な地域活性化を図ります。



3-3 施策体系

基本理念及び4つの基本目標の達成を目指し、基本目標ごとに施策の方向を示し、具体的な取り組みを進めていきます。

基本理念

みんながスポーツに親しみ 健康で活気あるまち はくい





基本方針1

スポーツ人口の拡大



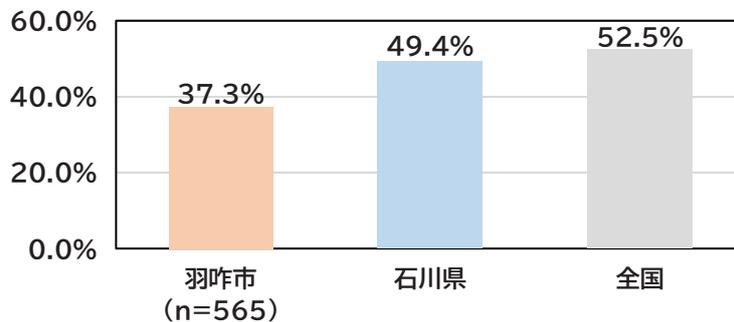
施策1

生涯スポーツの普及と推進

市民が年齢や性別、ライフスタイル、障害の有無にかかわらず、生涯にわたって「するスポーツ」に親しむことができる環境づくりを進めます。個人のニーズに対応したスポーツ環境づくりを進め、運動習慣の定着を目指します。その中で、障がい者の方もスポーツができる機会を増やし、体力や環境に応じたスポーツ機会を確保し、誰もが安心して活動できる仕組みを推進します。

解決したい課題

本市のスポーツ実施率(20~70歳代)は、国や石川県と比較して低い状況にあります。その要因としては、仕事・家事の忙しさや体力の衰えが考えられ、多角的な視点から改善に向けた対策が求められます。



週1日以上運動を実施している人の割合
(市民アンケート調査より)

■年齢層別の課題と運動の役割

	幼児期	青少年期	成人期	高齢期
課題	<ul style="list-style-type: none"> 多様な動きを含む遊びの経験の減少 体を動かして遊ぶ時間や環境の減少 	<ul style="list-style-type: none"> 運動への愛着の低下 スポーツや外遊びの機会の減少 自然体験の減少 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事・家事等による時間的な制約 	<ul style="list-style-type: none"> 体の衰えによる運動頻度の減少
運動の役割	<ul style="list-style-type: none"> 体力・運動能力の基礎固め 精神面を含めた社会性の発達 認知的能力の発達 	<ul style="list-style-type: none"> 体力・仲間・居場所づくり スポーツ習慣形成 自己肯定感の向上 社会性の形成 	<ul style="list-style-type: none"> 健康管理 コミュニティ形成 	<ul style="list-style-type: none"> 健康増進・介護予防 生きがいづくり

主な取り組み

- 市民スポーツ大会や市民駅伝祭等の市主催のスポーツイベントの開催
- 千里浜ビーチバレーボール大会の開催
- 幼児向けの体操教室やキッズキャラバンの開催
- スポーツ協会・スポーツ少年団の活動
- 総合型地域スポーツクラブ「バモスはくい」の活動
- 高齢者向けの運動教室の開催
- 障がい者スポーツの推進



【用語説明】 総合型地域スポーツクラブとは？

総合型地域スポーツクラブは、人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子供から高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多目的）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブです。

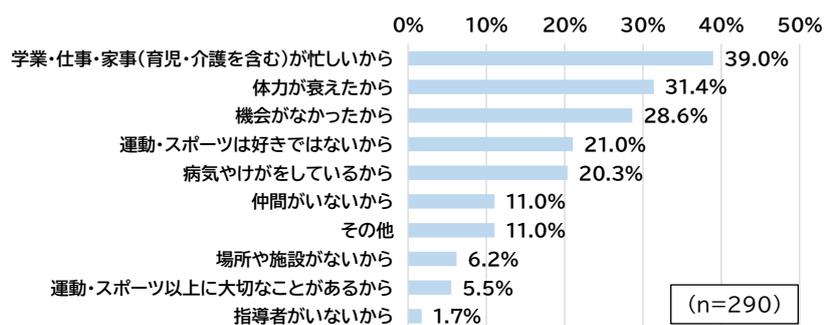


市民が気軽に誰でも参加でき、スポーツを楽しめるようなスポーツ大会の開催を進めます。既存の競技スポーツに留まらず、ニュースポーツ等の多様な種目を取り入れた体験型のイベントやレクリエーション大会を企画・実施します。また、ウォーキング大会を開催し、自然や文化等の羽咋らしさを感じながら運動ができる機会を創出します。これらの大会を通じて、運動への意欲が低い層や子どもたちに運動の楽しさを実感する機会を提供し、運動習慣へのきっかけとします。

施策1の取り組みは各世代や障がい者向け等の1つの属性に向けたものでありますが、施策2の取り組みでは多様な属性の人が交流しながら取り組める運動の提供を図ります。

解決したい課題

「学業、仕事、家事(育児・介護)」や「病気やけが」、「体力の衰え」は年齢やライフスタイルの変化によるものであり、施策1で解決を目指しますが、「機会がない」、「運動・スポーツが好きではない」、「仲間がない」等の年齢やライフスタイルによらない要因も見受けられます。



この1年間で運動・スポーツをしなかった理由(市民アンケート結果より)

主な取り組み

- **ニュースポーツ大会の開催(モルック、ボッチャ等)** 新規事業
近年、モルック大会が県内でも多く開催されています。子どもや年配の方はもちろんのこと、障がい者も参加できるニュースポーツ大会を開催します。
- **ウォーキング大会の開催** 新規事業
誰でも取り組みやすいウォーキングを通して、運動やスポーツに興味をもていただきます。コースは羽咋の自然や文化を感じられる千里浜海岸、気多大社、妙成寺、長手島、柴垣海岸、邑知潟、邑知平野(トキの放鳥)等が考えられます。
- **健康づくりセミナーの開催** 新規事業
運動の種類、仕方、頻度、負荷のかけ方等を学ぶ講習会を開催します。
- **スポーツ少年団等が行う体験会の実施**

習慣的な運動の定着を図るため、運動を促す刺激・動機・励み等につながるポイント制度を強化します。運動教室やスポーツイベントへの参加、健康診断の受診等、健康づくりに繋がる行動に対しポイントを付与する仕組みを構築します。これにより、市民の運動に対する意欲を持続させ、運動を「習慣」として根付かせるための動機づけを強化します。また、羽羽ポイントを地域商品券等に交換することで、地域経済への波及効果も目指します。

主な取り組み

- 羽羽ポイントの普及・促進 拡充事業
対象年齢を65歳以上から40歳以上に広げ、ユーフォリア千里浜でのプール利用者、ラクナ主催の健康・運動講座等に対し、ポイントを付与します。
- いしかわスポーツマイレージの普及・促進

【用語説明】 羽羽ポイントとは？

本市が実施している「羽咋市介護予防ポイント事業」であり、65歳以上の方の健康を維持し、閉じこもりを防ぐことを目的に、介護予防活動に参加したり、地域のボランティア活動を行うことで、介護予防ポイントを得ることができます。ポイントは「UFOカードポイント引換券」や「UFO商品券」と交換ができ、地域での買い物に使用することができます。

令和7年10月より、新たに名称を「介護予防ポイント」から「羽羽ポイント」とし、スマートフォンで2次元コードを読み取りポイントを獲得する、「デジタルポイント」を導入しています。また、ポイント交換の内容については大幅な拡充を進めています。

【用語説明】 いしかわスポーツマイレージとは？

「いしかわスポーツマイレージ」は、スポーツを「する」「みる」「ささえ」の3つの活動においてポイント化し、だれでも気軽にスポーツに参加できるきっかけをつくる石川県の公式アプリです。

このアプリでは、さまざまなスポーツ活動を通してポイントを貯めることができ、貯まったポイント数に応じて、石川県の特産品や協賛企業の商品等が当たる抽選に応募することができます。



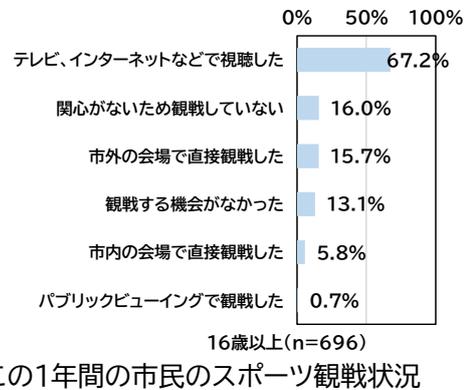
施策4

みるスポーツの推進

市民のスポーツへの関心を高めるため、プロスポーツの試合や地域で開催される競技大会等の「みるスポーツ」の機会の充実を図ります。現地での観戦機会の確保に加え、市民が気軽に集まって楽しめるパブリックビューイング等の多様な観戦方法に着目し、観戦機会を創出します。これにより、スポーツがもたらす感動や活力を市民と共有し、一体感を醸成します。観戦から参加への意識変化を促し、市民のスポーツ活動への参画意欲を高めます。

解決したい課題

本市においては都市と比較するとトップスポーツの試合や大会の開催が少なく、本市民はスポーツ観戦をする際に、市内会場よりも市外会場に足を運ぶことが多くなってしまいます。現地観戦が難しい方のための観戦機会の提供及び情報発信が求められます。



主な取り組み

- **パブリックビューイングによる観戦機会の提供** 新規事業
羽咋市出身の選手が出場する試合または、世界的スポーツの祭典であるオリンピックやワールドカップ(サッカー、野球、バスケット、ラグビー等)の試合等をパブリックビューイングで観戦できる機会を提供します。
- 県内トップスポーツチームの無料招待等を活用した市民のスポーツ観戦の促進

【用語説明】パブリックビューイングとは？

スポーツイベントや文化行事等の映像を大型スクリーン等に投影し、多くの人々が同じ会場で観覧・応援する取り組みであり、参加者同士の一体感の醸成や地域の交流促進につながるものです。

スポーツイベント、公共スポーツ施設に関する情報に加え、地域のスポーツ団体の活動の様子や団体の宣伝情報を積極的に発信し、市民のスポーツへの関心を高めます。特に、eスポーツやニュースポーツ等の新たなスポーツが心身の健康に与える良い影響や世代を超えて楽しめる特性を積極的に周知し、スポーツの多様な価値を伝えます。また、施設利用に関する利便性の高い情報を発信することで、市民がスポーツ活動に参加しやすい環境を整えます。

解決したい課題

市内のスポーツ活動の推進にあたり、地域のスポーツ団体の活動やイベントの情報発信が不足しています。また、スポーツ観戦をしなかった理由として、「観戦する機会がない」、「関心がない」と回答した市民が多いことも課題となっています。観戦だけに限らず、「する」ことに関しても「機会がない」「関心がない」と回答した市民の割合は高かったため、本計画で示した取り組みを市民に周知するためにも情報発信の強化が不可欠となります。

主な取り組み

- SNS や広報はくい、ホームページ等を活用した情報発信
- 地域スポーツ団体の活動発信
- 羽咋市スポーツ協会の会報の発行

【用語説明】 羽咋市の公式 SNS とは？

本市では「LINE」、「Facebook」、「X(旧 Twitter)」、「Instagram」の4つの SNS を運用しています。イベントやお知らせ等のタイムリーな行政情報や、本市の魅力、旬な話題、緊急情報等の様々な情報を幅広く発信しています。



施策6

競技スポーツの支援

地域における競技スポーツの継続的な振興を図るため、地域のスポーツ団体の活動基盤強化を支援し、子どもたちが競技に親しめる「ささえるスポーツ」の環境を確保します。また、競技力の向上を目指す選手が安心して活動できるよう、安定した継続的な大会の開催への補助や最優秀選手への報奨金支給等のトップアスリートを目指す人材とそれを支える団体への支援を充実させます。これにより、競技人口や競技種目団体会員の拡大を図ります。

解決したい課題

関係団体アンケート調査によると、「競技人口の減少」及び「会員数の減少」が大きな問題となっています。また、各種大会の継続に向けた大会参加者の維持・増加を課題と捉えている団体が多くなっています。

主な取り組み

- **競技種目団体が主催する市の冠大会への支援** **新規事業**
各種目協会が羽咋市長杯等の大会を主催する際には、その運営に必要となる開催費用について、市が補助を行います。これにより、各協会がより安定的に大会を開催できるよう支援し、競技環境の充実や参加者の裾野拡大につなげていきます。
- **最優秀選手への報奨金支給** **新規事業**
これまで毎年最優秀選手を表彰してきましたが、選手の努力をより幅広い形で称えるため、新たに報奨金の支給を行うこととします。
- 全国大会等出場者への補助金支給
- 市スポーツ協会の活動支援



指導者・ボランティア不足の解消に向け、研修や資格取得支援を充実させ、質の高い指導者や担い手を育成する「はぐくむスポーツ」の取り組みを充実させます。また、部活動の地域展開を円滑に進めるため、学校と地域クラブの連携を強化し、指導者の受け皿を拡充します。指導者やボランティアが持続的に活動できるよう、活動条件の改善を図ります。

解決したい課題

スポーツ機会の提供や地域内の交流促進、部活動の地域展開を進めるにあたり、受け皿となる地域クラブ等で活動できる指導者が不足しています。また、競技スポーツとして技術的・精神的に高いレベルで指導できる指導者も不足しており、質・量の両面で課題が表面化しています。

主な取り組み

- **指導者・審判等の資格取得支援** 新規事業
指導者や審判等の資格を取得または更新する際の費用について市が補助を行います。指導体制の充実や競技レベルの向上を図り、より質の高いスポーツ環境を提供することを目的としています。
- **スポーツ推進委員の研修の充実** 拡充事業
スポーツ推進委員が全国大会や各種研修会等に参加する際、その参加にかかる費用について市が補助を行います。これにより、委員の知識や技能の向上を図り、地域におけるスポーツ振興活動の充実に役立てることを目的としています。
- 部活動の地域展開の推進
- 市スポーツ少年団指導者の活動支援

【用語説明】 部活動の地域展開とは？

少子化や教員の働き方改革が課題となるなか、国は令和13年度までに、休日における、原則全ての部活動の地域展開の実現を目指すこととしています。本市では令和7年8月に生徒や保護者に対して「中学校部活動に関するアンケート調査」を実施し、関係者の声を傾聴しながら、段階的に地域展開を進めています。

施策8

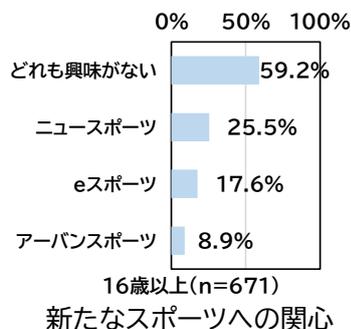
交流人口の拡大・地域活性化

スポーツが持つ人が集まる機会を創出する「あつまるスポーツ」と、人と人がつながる関係性を育む「つながるスポーツ」の役割を最大限に活用し、地域全体の活性化を図ります。また、スポーツ合宿等を支援し、交流人口の拡大を推進します。eスポーツやニュースポーツ等の新たなスポーツの要素をイベントや交流事業に取り込むことで、若者や多様な世代間の交流を促進します。さらにはスポーツと観光を掛け合わせることで、地域の魅力発信を図りながら、スポーツを通じた地域の一体感の醸成と持続可能な地域活性化を図ります。

解決したい課題

市民の新たなスポーツへの関心について、「eスポーツ」「アーバンスポーツ」「ニュースポーツ」のいずれにも興味がない市民が多く、全体的に関心度は高くない状況です。

特に「eスポーツ」については、年齢が上がるにつれて興味が低下する傾向がみられ、若年層を中心とした限定的な広がりにとどまっています。



主な取り組み

● スポーツツーリズムの推進 **新規事業**

訪日外国人を対象に、日本の伝統スポーツである剣道や弓道等の体験機会を提供します。併せて市内での宿泊を通じて、本市の特産品を味わってもらい、食文化や地域資源の魅力を感じていただくことで、国内外へ本市の魅力の発信を目指します。

● eスポーツクラブチームの活動推進 **拡充事業**

eスポーツのクラブチームを新たに創設したことにより、若者や幅広い世代が参加できる環境を整え、チーム活動を通じて競技力の向上やコミュニティ形成を図ります。

● eスポーツ大会の開催 **拡充事業**

eスポーツの裾野拡大を目的として、子ども向けや高齢者向け等の多様な世代を対象とした大会を開催し、参加者や観戦者のファン層の拡大を図ります。

● スポーツ合宿の支援 **拡充事業**

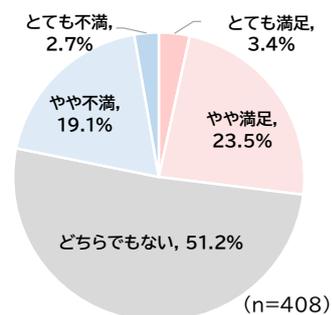
市内宿泊施設を利用した合宿に対し、一人当たりの助成金を拡充し、合宿の誘致を図ります。

スポーツ施設の利便性向上を推進し、利用環境の改善を図ります。特に要望の多い夏季の熱中症リスクへの対応に向けて、体育館アリーナの空調整備を進めます。施設の老朽化や震災の影響を踏まえ、公共施設等総合管理計画に基づき、安全で持続可能な施設のあり方を検討し、誰もが安心して利用できるスポーツ活動の環境を整備します。スポーツ施設だけでなく、地域の公民館や学校開放を活用しながら、スポーツをする場を整えていきます。

解消したい課題

本市のスポーツ施設への要望として、「暑さ・寒さ対策への対応」や「施設の改修」、「スポーツ設備、器具、用具の充実」の割合が高くなっています。

また、スポーツ施設の利用満足度をみると、満足した人の割合は26.9%となっています。



市内スポーツ施設の利用満足度

主な取り組み

- **スポーツ施設の空調整備** 新規事業
近年の気温上昇による利用者の熱中症を防ぐため、羽咋体育館、羽咋市武道館に空調設備を設置し、スポーツ環境の改善を図ります。
- **公園の利用環境整備** 新規事業
利用者が快適に散歩やランニング等ができるように公園の照明LED化、園路改修、遊具の整備等を行います。
- **スポーツ施設の一体的管理・運営** 新規事業
12施設あるスポーツ施設の管理・運営を一体的に指定管理者に委託することで、民間のノウハウを生かした利用者サービスの向上や効率的な管理・運営を図ります。
- **スポーツ施設の用具等の充実** 拡充事業
羽咋体育館に筋肉量や基礎代謝等が測れる体組成計等を設置し、体育館の魅力向上を図り、利用者の増加を目指します。
- 学校施設の開放



5-1 計画の推進体制

本計画の推進にあたっては、市民が主体的にスポーツに取り組み、併せて地域における交流が促進されるよう、市・市民・スポーツ団体等が連携し、一体的かつ効果的な取り組みを進めるものとします。

また、計画を着実に推進するため、成果指標及び数値目標の進捗を管理するとともに、庁内関係部署による事業の実施状況を定期的に把握し、必要な検証・調整を実施します。

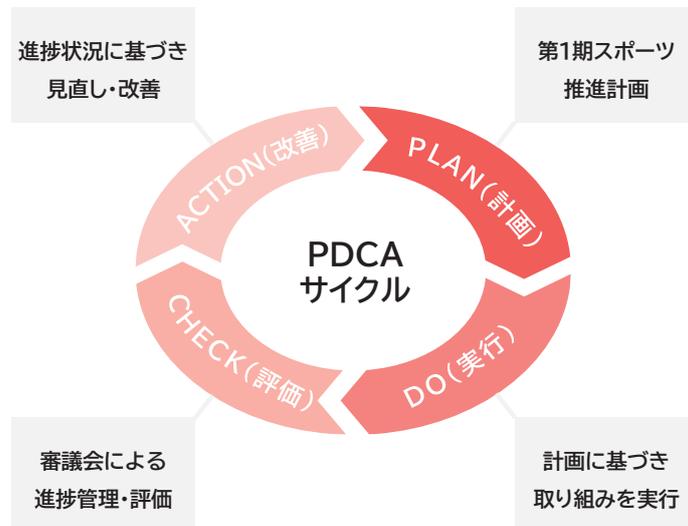
さらに、計画の評価に際しては、庁内関係部署との情報共有に基づき、基本目標ごとの進捗状況を確認したうえで、必要に応じて事業の見直し及び改善を実施します。あわせて、羽咋市スポーツ推進審議会において、改善策の検討・協議ならびに評価・見直しに係る意見を求め、計画の適切な管理を図ります。

羽咋市スポーツ推進審議会

スポーツ推進審議会は、スポーツ基本法に基づき設置され、スポーツ関係団体の代表者や学識経験者、公募による市民等で構成されています。スポーツ推進に関する計画を審議するほか、諮問事項について調査・審議を行い、必要に応じて意見や提言を示すことで、市のスポーツ施策の方向性や改善に寄与する役割を担っています。

進捗管理について

スポーツ施策の推進には、各施策展開について実効性を確保するための進捗管理を行う必要があります。各施策に関して、「計画(PLAN)」「実行(DO)」「評価(CHECK)」「改善(ACTION)」のPDCAサイクルを繰り返し行うことで、取り組みの実効性を確保します。

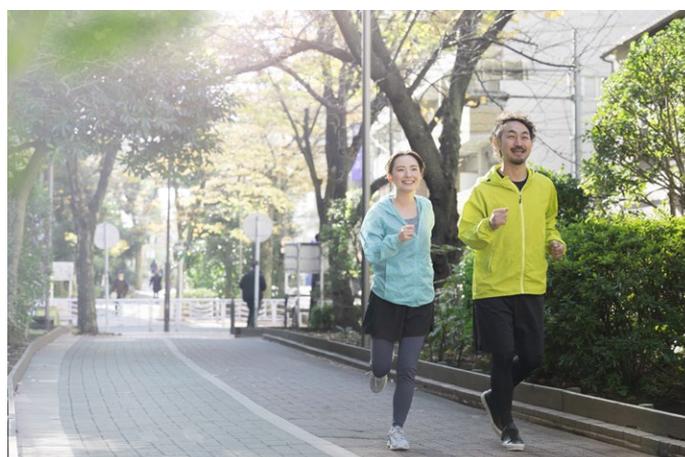


5-2 計画の成果指標・目標値

本計画では、地域のスポーツ参画機会を拡大し、誰もが生涯にわたってスポーツに親しめる環境づくりを進めるため、住民の実施状況や意識、施設利用の質を総合的に把握できる指標を設定します。特に、日常的な運動・スポーツの実施や観戦を通じたスポーツへの関心の高まり、地域を支えるボランティア活動の活性化、そして身近なスポーツ施設への満足度向上は、持続的なスポーツ環境の構築に欠かせない視点です。これらの指標について現状を踏まえつつ、今後の方向性を明確にするため、以下の4つを重点数値目標として掲げます。

■計画の重点数値目標

指標		現状値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
基本目標1	週1日以上運動・スポーツを実施する成人の割合 ※国の調査と比較するため成人と限定	37.3%	50%
基本目標2	スポーツを観戦した人の割合(形式は問わない)	72.4%	80%
基本目標3	ボランティアを実施した人の割合	10.6%	15%
基本目標4	スポーツ施設の利用満足度 ※市民アンケート調査で「とても満足」「やや満足」と回答した人の合計割合	27.6%	35%





1 市民アンケート調査結果

調査票の発送・回収

発送・回収等の概要

①対象者	本市にお住いの16歳以上の方 2,000人(無作為抽出) ※うち宛先不明が10件
②実施期間	2025年8月1日～8月20日
③配布・回収方法	郵送にて発送 同封の返信用封筒による返送または案内文に記載のQRコードからWEBで回答
④回収状況	紙 545件 WEB 177件 計 722件 回収率36.3%(有効母数1,990件)

調査結果の概要

I ご自身の健康について

- 全体では、約8割が運動不足(「大いに感じる」と「少し感じる」)と感じています。また、30～50歳代が運動不足を感じている人が多くなっています。さらに、男性よりも女性の方が運動不足を感じている人が1割ほど多くなっています。

II 運動スポーツの実施について

- スポーツの実施状況について、週1日以上(「週に5日以上」と「週に3,4日」、「週に1,2日」の合計)が38.6%、「行っていない」が41.3%となっています。国や石川県と比較すると、本市の運動・スポーツの実施率は1割ほど低くなっています。特に30歳代の実施率が低くなっています。さらに、男性より女性の方がスポーツの実施率が低くなっています。
- スポーツができなかった理由について、「学業・仕事・家事(育児・介護を含む)が忙しいから」や「体力が衰えたから」、「機会がなかったから」が多くなっています。特に60歳代以下では「学業・仕事・家事(育児・介護を含む)が忙しいから」が多くなっています。一方で60歳代以上は「体力の衰え」や「病気やけが」の理由が多くなっています。
- 今後の実施意向について、全体的には「自分のペースでできる運動を取り入れたい」が約4～5割となっています。また、不定期実施層と非実施層は「自分のペースでできる運動を取り入れたい」と回答した人が多く、運動の意欲はある程度見られます。しかしながら、非実施層は不定期実施層に比べて、「今のままで特に変えるつもりはない」や「運動は苦手なので無理に取り組まない」、「仕事や家庭の都合で時間が取れない」が多くなっており、運動への意欲は低くなっています。

Ⅲ スポーツの観戦・ボランティア等について

- 観戦について、全体的に「テレビ、インターネットなどで視聴した」と回答した人が 6 割ほどと多くなっています。一方で、市内会場での観戦は 1 割に満たず少なくなっています。
- ボランティアについて、「したことがない」が約 9 割を占めており、本市のスポーツボランティアの実施率は低い状況であります。国と比較するとボランティアを実施した人の割合はわずかに高くなっています。

•

Ⅳ 羽咋市のスポーツに関する取り組みについて

- スポーツ振興に向けて羽咋市に期待することについて、「年齢やライフステージに合わせた運動やスポーツ活動の推進」や「スポーツ施設・設備の整備・充実」が約 4 割と多くなっています。
- 施設への要望としては、「暑さ・寒さ対策への対応」、「施設の改修」、「スポーツ設備・器具・用具の充実」が望まれています。

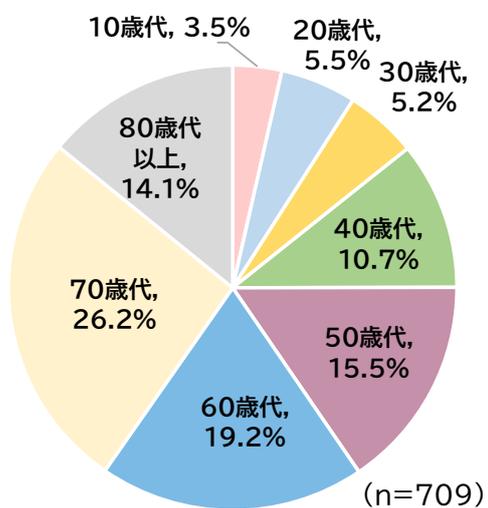
Ⅴ その他のスポーツについて

- その他のスポーツへの関心について、全体として「ニュースポーツ」への関心はどの年齢層も 2 割以上あります。20 歳代以下はニュースポーツへの関心が圧倒的に高くなっていますが、年齢が上がるにつれて、その他のスポーツのどれにも興味がない人が多くなっています。
- その他のスポーツを推進すべき場面について、どのスポーツも「市内での地域間交流促進」と「年代、性別、障害の有無に関わらず共に活動する場の創設」が高い傾向にあります。ニュースポーツは「医療・福祉分野での健康予防」が 50%と高く、アーバンスポーツは「観光資源・スポーツツーリズム」が 47.5%と高くなっています。

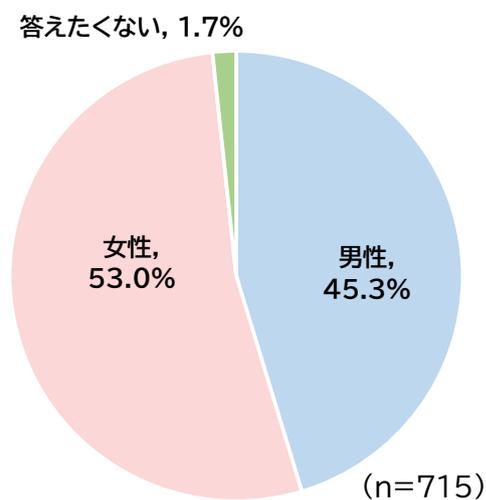
調査結果の集計・とりまとめ

調査結果の集計

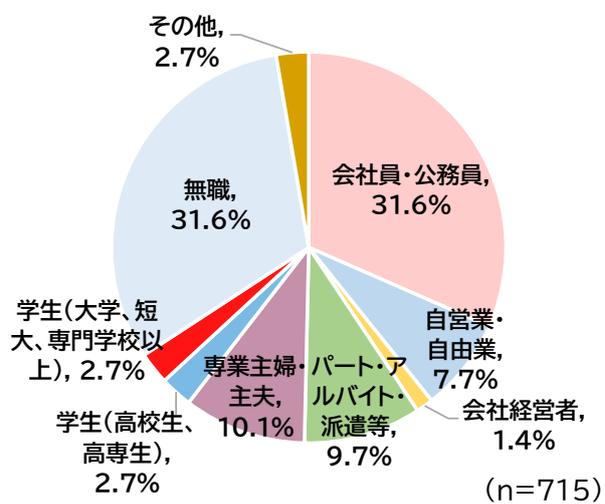
【①年齢構成】



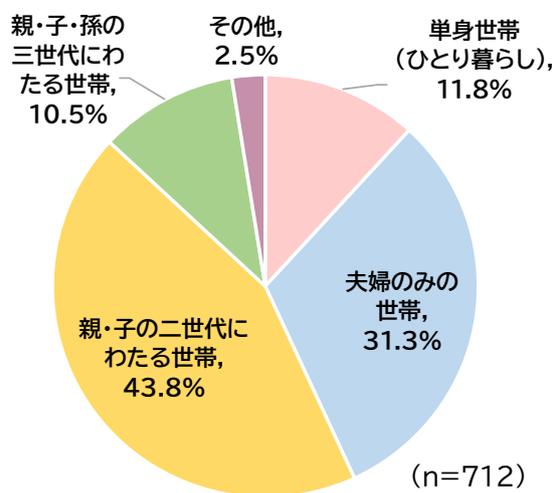
【②性別】



【③職業】



【④世帯構成】



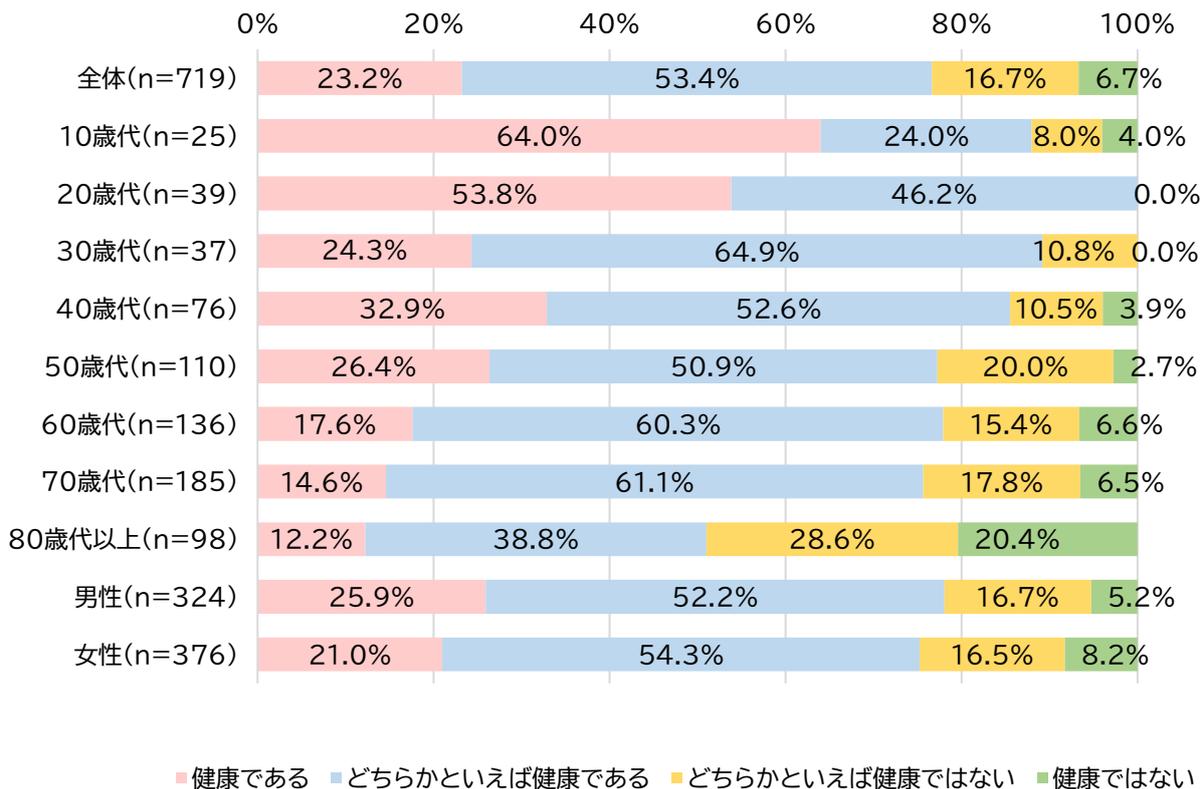
I ご自身の健康について

問1 あなたは、ご自身の健康状態についてどのように感じていますか。(ひとつに〇)

全体では、約 8 割が健康(「健康である」と「どちらかといえば健康である」と回答しています。

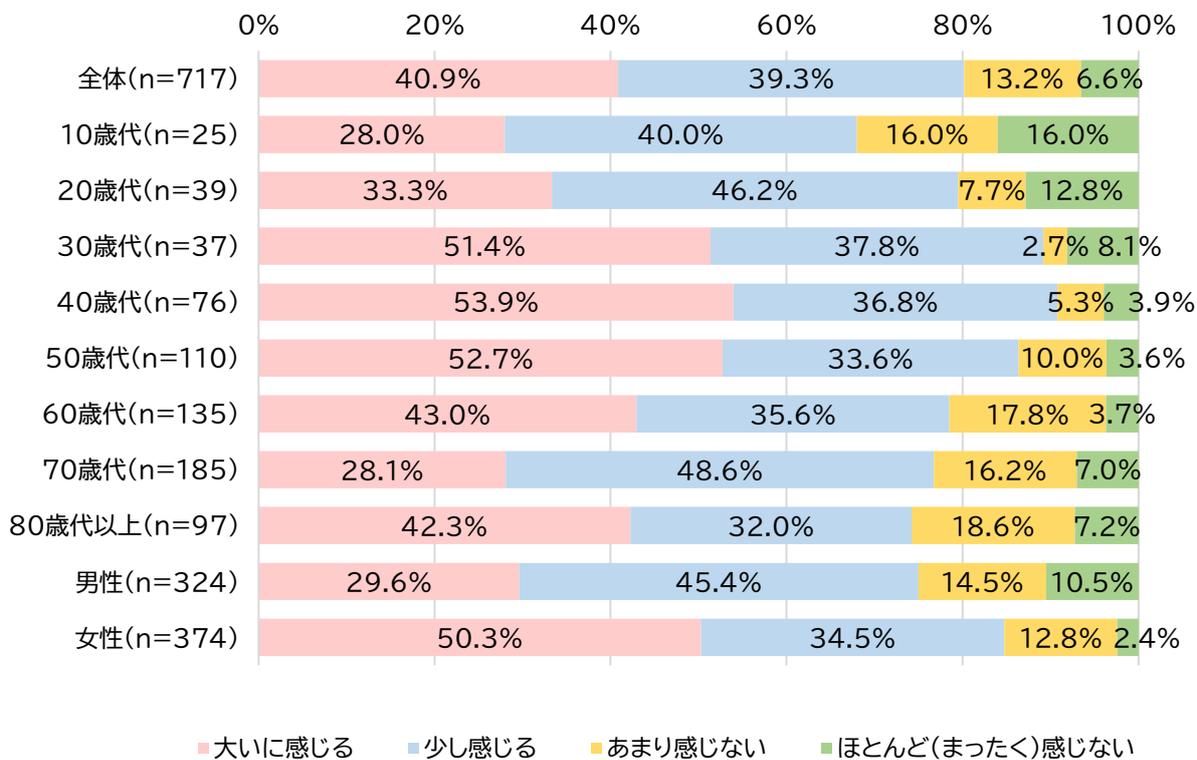
年齢別にみると、年齢を重ねるごとに健康と感じている人の割合は減少し、特に 80 歳代以上は約半数にとどまります。

性別にみると、女性よりも男性の方がわずかに健康と感じている人が多くなっています。



問2 あなたは、普段、運動不足を感じていますか。(ひとつに○)

全体では、約 8 割が運動不足(「大いに感じる」と「少し感じる」)と感じています。
 年齢別にみると、30～50 歳代が運動不足を感じている人が多くなっています。
 性別にみると、男性よりも女性の方が運動不足を感じている人が 1 割ほど多くなっています。



問3 あなたは、運動・スポーツが好きですか。(〇はいくつでも)

全体では、「観ることが好き」が 53.7%、「することが好き」が 44.3%となっています。

年齢別にみると、30 歳未満は「することが好き」と回答した人が最も多くなっていますが、年齢が上がるにつれて「観ることが好き」と回答した人が増える傾向にあります。また、30, 40 歳代はどれも好きではないと回答とした人が多くなっています。

性別にみると、女性よりも男性の方が「することが好き」と回答した人が 2 割ほど多く、「どれも好きではない」と回答した人は女性の方が 1 割以上多くなっています。

	することが好き	観ることが好き	サポートすることが好き	どれも好きではない
全体(n=715)	44.3%	53.7%	6.3%	21.0%
10歳代(n=25)	64.0%	40.0%	4.0%	16.0%
20歳代(n=39)	64.1%	38.5%	10.3%	20.5%
30歳代(n=37)	51.4%	40.5%	8.1%	29.7%
40歳代(n=76)	44.7%	46.1%	6.6%	30.3%
50歳代(n=109)	53.2%	55.0%	10.1%	16.5%
60歳代(n=134)	34.3%	59.0%	9.0%	20.1%
70歳代(n=185)	44.3%	59.5%	1.6%	16.2%
80歳代以上(n=98)	33.7%	55.1%	5.1%	24.5%
男性(n=323)	54.8%	54.2%	6.2%	13.9%
女性(n=374)	36.1%	53.2%	6.4%	26.2%

II 運動スポーツの実施について

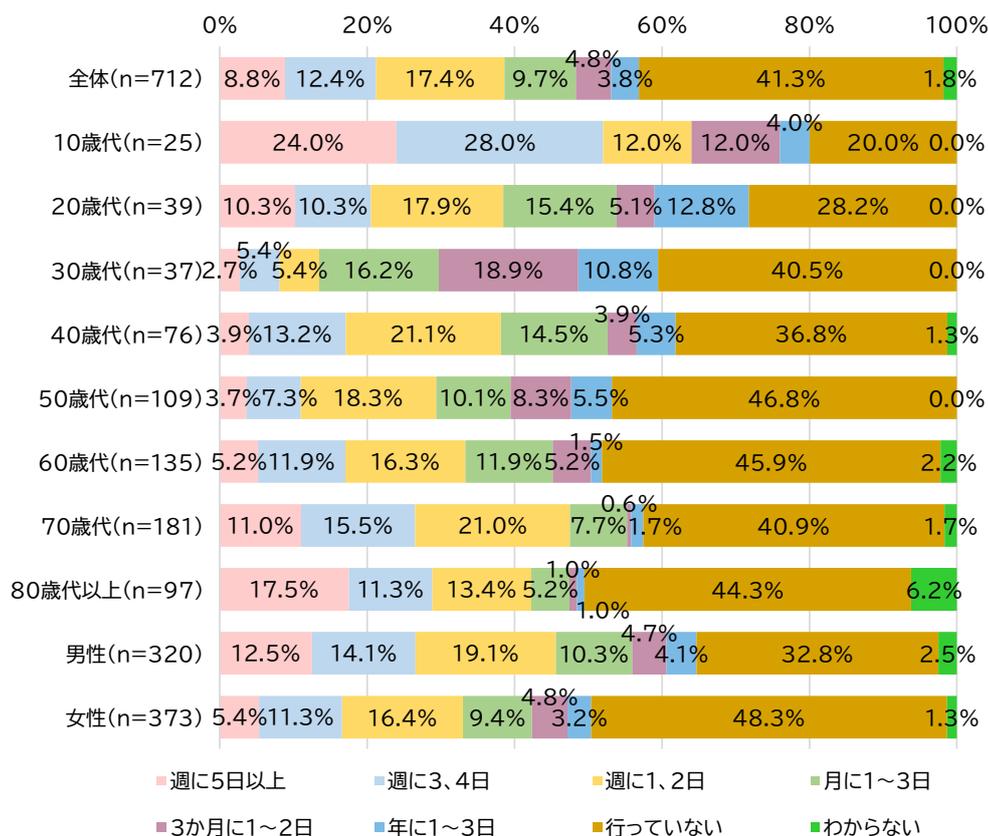
問4 学校での授業・部活などとして行ったものを除き、この1年間で1回当たり30分以上の健康のための運動やスポーツをどの程度行いましたか。(ひとつに○)

全体をみると、週1日以上(「週に5日以上」と「週に3、4日」、「週に1、2日」の合計)が 38.6%、「行っていない」が 41.3%となっています。

年齢別にみると、30 歳代の週 1 日以上の実施が 13.5%と、全体より 2 割低くなっています。

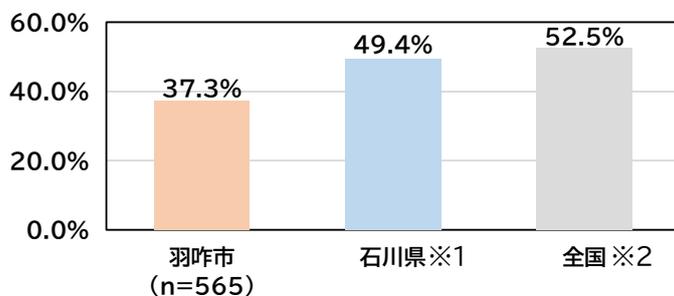
性別にみると、男性よりも女性の方が 1 割ほどスポーツの実施率が低くなっています。

国や石川県と比較すると、本市の運動・スポーツの実施率は 1 割ほど低くなっています。



【国の調査との比較】

20代~70代の週1日以上実施しているの割合



※1石川県スポーツ推進計画 2021,

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/sports/keikaku/documents/keikakuoverall.pdf>

※2 スポーツ庁(2025)令和6年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」,

https://www.mext.go.jp/sports/bmenu/toukei/chousa04/sports/1415963_00013.htm

(令和7年9月10日時点)より編集

【参考】

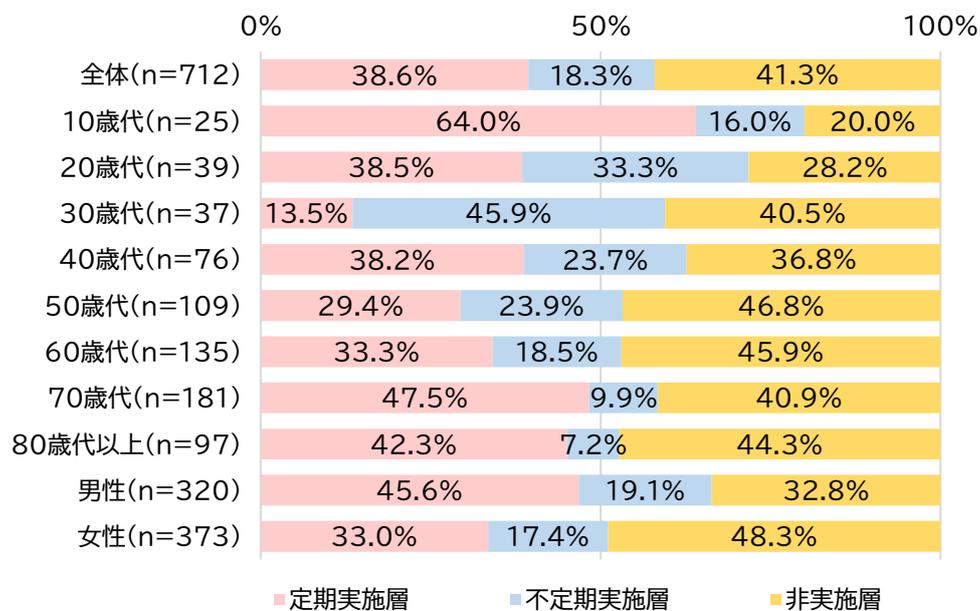
成人等におけるスポーツの実施状況に応じた課題や対策を検討するため、問4の結果を活用し、実施頻度に着目して「定期実施層」、「不定期実施層」、「非実施層」の3つに分類しました。3分類の具体的な定義は次の通りです。

スポーツの実施状況の分類の定義

分類	定義
定期実施層	過去1年間で週に1日以上スポーツを実施した人
不定期実施層	過去1年間で1度でもスポーツを実施したが、週に1日未満に留まった人
非実施層	過去1年間で1度でもスポーツを実施しなかった人

全体では、非実施層が41.3%、定期実施層が38.6%、不定期実施層が18.3%となっています。年齢別では、30歳代の不定期実施層が45.9%となっています。50歳以上になると、非実施層の割合が大幅に増加しています。

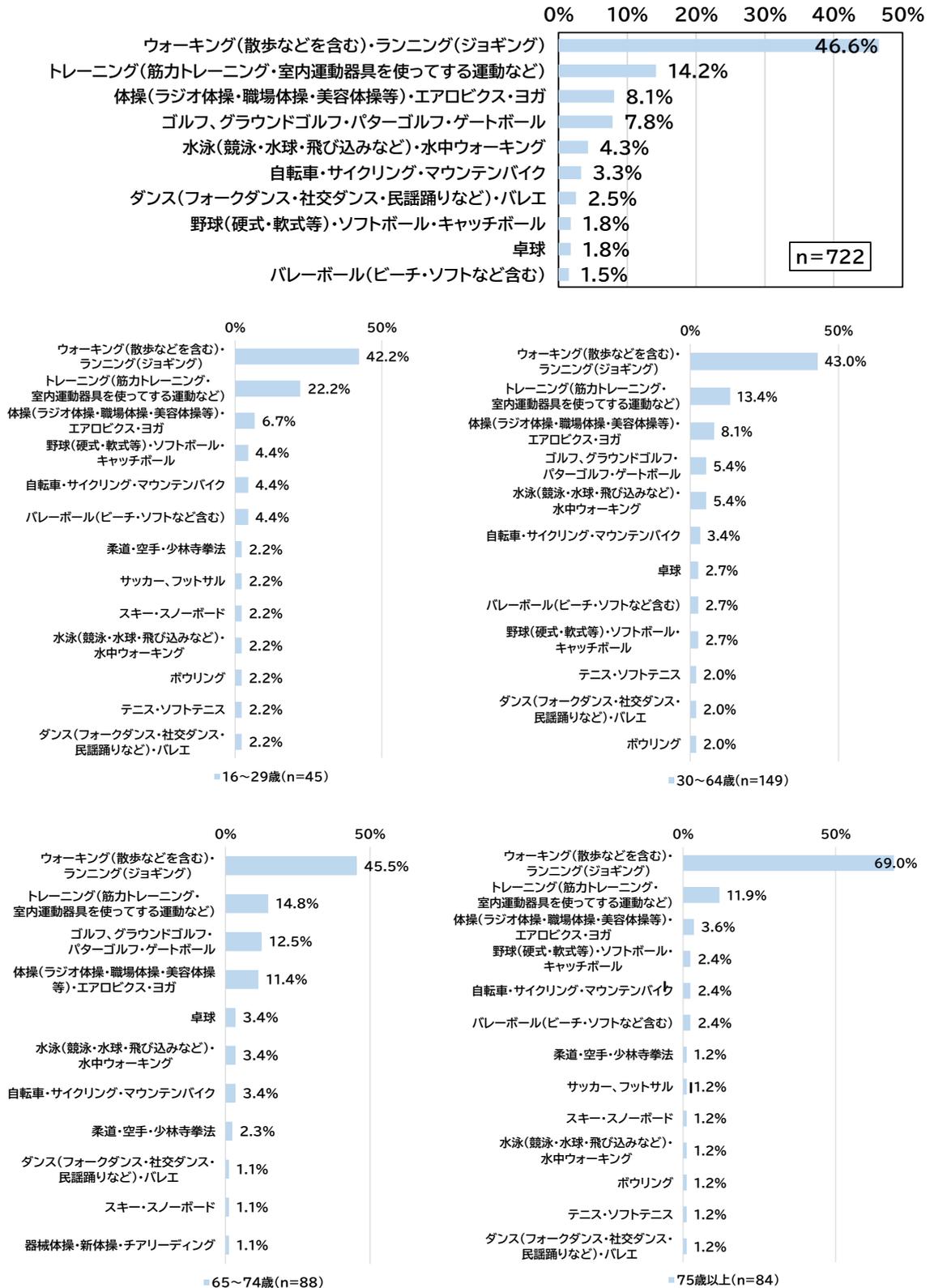
性別にみると、男性よりも女性の方が2割近く非実施層が多くなっています。



問5 1回当たり30分以上行った運動・スポーツの中で最も多いのは何ですか。(最も多いもの1つまで)

どの年代も、「ウォーキング・ランニング」、「トレーニング」、「体操」が上位を占めています。また、65～74歳では「ゴルフ、グラウンドゴルフ・パターゴルフ・ゲートボール」の実施が多くなっています。

【運動・スポーツの種類上位 10 位まで】



問6 その運動やスポーツをした理由について教えてください。(〇は3つまで)

全体では、「健康・体力づくりのため」が約8割となっています。次いで、「ストレス解消のため」「友人、仲間との交流のため」「そのスポーツが好きだから・楽しいから」が約2割で続きます。

年齢別にみると、20歳代及び50歳代以上は「友人、仲間との交流のため」と回答した人が多くなっています。また、20、30歳代では「そのスポーツが好きだから・楽しいから」と回答した人が多くなっています。

性別にみると、女性よりも男性の方が「そのスポーツが好きだから・楽しいから」と回答した人が1割ほど多くなっています。

	健康・体力づくりのため	ストレス解消のため	自己の記録や能力を向上させるため	そのスポーツが好きだから・楽しいから	友人、仲間との交流のため	家族の触れ合いのため	ペットの散歩のため	その他
全体(n=414)	79.2%	24.4%	8.2%	19.1%	22.5%	5.6%	3.6%	6.5%
10歳代(n=20)	65.0%	20.0%	10.0%	15.0%	10.0%	0.0%	5.0%	20.0%
20歳代(n=28)	60.7%	32.1%	17.9%	42.9%	32.1%	3.6%	0.0%	10.7%
30歳代(n=22)	40.9%	18.2%	9.1%	36.4%	4.5%	18.2%	0.0%	9.1%
40歳代(n=48)	81.3%	29.2%	4.2%	14.6%	8.3%	8.3%	2.1%	8.3%
50歳代(n=58)	79.3%	29.3%	12.1%	22.4%	24.1%	8.6%	3.4%	3.4%
60歳代(n=71)	74.6%	25.4%	7.0%	19.7%	18.3%	4.2%	9.9%	4.2%
70歳代(n=107)	94.4%	20.6%	5.6%	13.1%	29.0%	2.8%	3.7%	3.7%
80歳代以上(n=52)	84.6%	21.2%	5.8%	13.5%	26.9%	5.8%	0.0%	9.6%
男性(n=214)	77.1%	24.8%	10.7%	24.3%	22.0%	4.7%	3.3%	7.5%
女性(n=190)	82.1%	24.2%	4.7%	14.2%	21.6%	6.8%	4.2%	5.8%

問7 この1年間で運動・スポーツをどこでしましたか。(〇は3つまで)

全体では、「道路・遊歩道」が 40.5%、次いで「自宅・自宅敷地内」が 26.2%、「公共スポーツ施設」が 23.8%と続きます。

年齢別にみると、30 歳代以下では学校体育施設での実施が多く、70 歳代以上では公民館・集会所での実施が多くなっています。

性別にみると、女性よりも男性の方が公共スポーツ施設や民間スポーツ施設で実施が多くなっており、一方で男性よりも女性の方が公民館・集会所での実施が多くなっています。

	公共スポーツ施設	学校体育施設	公園・広場・空地	自宅・自宅敷地内	道路・遊歩道	民間スポーツ施設	公民館・集会所	その他
全体(n=417)	23.7%	8.6%	15.1%	26.1%	40.5%	16.5%	12.7%	8.4%
10歳代(n=20)	20.0%	55.0%	15.0%	30.0%	25.0%	10.0%	0.0%	15.0%
20歳代(n=28)	32.1%	21.4%	14.3%	21.4%	28.6%	25.0%	0.0%	3.6%
30歳代(n=22)	27.3%	22.7%	36.4%	31.8%	18.2%	27.3%	0.0%	4.5%
40歳代(n=48)	33.3%	12.5%	18.8%	37.5%	50.0%	12.5%	10.4%	2.1%
50歳代(n=59)	30.5%	3.4%	11.9%	22.0%	47.5%	25.4%	1.7%	8.5%
60歳代(n=71)	22.5%	2.8%	15.5%	19.7%	45.1%	19.7%	12.7%	9.9%
70歳代(n=108)	17.6%	2.8%	13.0%	23.1%	43.5%	12.0%	23.1%	5.6%
80歳代以上(n=53)	20.8%	1.9%	11.3%	32.1%	37.7%	5.7%	20.8%	18.9%
男性(n=214)	30.4%	9.3%	17.8%	23.8%	43.5%	22.0%	5.6%	9.8%
女性(n=193)	17.1%	7.8%	11.4%	29.0%	37.8%	10.4%	20.7%	6.7%

問8 あなたは、どのようにして運動・スポーツ活動を行っていますか。(〇は3つまで)

全体では、「個人で」が58.3%と非常に多く、次いで「仲間と一緒に」が29.4%と続きます。

年齢別にみると、60歳以上になると、「市(公民館含む)やスポーツ団体、スポーツ施設などが行う教室などで」が多くなっています。

性別にみると、男性と女性の違いはあまり見られません。

	職場・学校(授業・部活以外)で	仲間と一緒に	市(公民館含む)やスポーツ施設などが行う教室などで	民間が実施するフィットネスクラブやスクールなどで	個人で	家族で	その他
全体(n=417)	6.0%	29.5%	15.6%	5.8%	58.5%	16.8%	3.6%
10歳代(n=20)	40.0%	30.0%	0.0%	5.0%	50.0%	20.0%	0.0%
20歳代(n=28)	7.1%	32.1%	3.6%	3.6%	60.7%	7.1%	0.0%
30歳代(n=22)	18.2%	13.6%	13.6%	4.5%	40.9%	54.5%	4.5%
40歳代(n=48)	8.3%	14.6%	10.4%	4.2%	81.3%	22.9%	0.0%
50歳代(n=59)	5.1%	32.2%	3.4%	6.8%	69.5%	27.1%	0.0%
60歳代(n=71)	4.2%	26.8%	19.7%	9.9%	52.1%	19.7%	2.8%
70歳代(n=109)	0.9%	35.8%	23.9%	4.6%	55.0%	5.5%	3.7%
80歳代以上(n=52)	0.0%	30.8%	25.0%	3.8%	51.9%	9.6%	15.4%
男性(n=215)	6.0%	32.1%	12.1%	5.6%	63.3%	16.3%	3.7%
女性(n=192)	6.3%	25.5%	19.8%	5.7%	53.6%	17.7%	3.6%

問9 運動やスポーツを行わなかった理由について教えてください。(〇は3つまで)

(問4でこの1年で運動・スポーツを「7. 行っていない」と回答した人にお聞きします。)

全体では、「学業・仕事・家事(育児・介護を含む)が忙しいから」と回答した人が 38.7%と最も多く、「体力が衰えたから」が 31.2%、「機会がなかったから」が 28.8%と続きます。

年齢別にみると、60歳代以下では「学業・仕事・家事(育児・介護を含む)が忙しいから」が約5割以上と多くなっています。また、60歳代以上は「体力の衰え」や「病気・けが」の理由が多くなっています。

性別にみると、男性と女性で割合の差はあまり見られないが、「学業・仕事・家事(育児・介護を含む)が忙しいから」と回答した人は女性の方がやや多くなっています。

	学業・仕事・家事(育児・介護を含む)が忙しいから	病気やけがをしているから	体力が衰えたから	場所や施設がないから	指導者がいないから	仲間がないから	運動・スポーツ以上に大切なことがあるから	運動・スポーツは好きではないから	機会がなかったから	その他
全体(n=292)	38.7%	20.2%	31.2%	6.5%	1.7%	11.3%	5.5%	21.2%	28.8%	11.0%
10歳代(n=5)	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	40.0%	20.0%
20歳代(n=11)	63.6%	18.2%	18.2%	9.1%	9.1%	0.0%	0.0%	45.5%	45.5%	0.0%
30歳代(n=15)	66.7%	0.0%	6.7%	13.3%	6.7%	26.7%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%
40歳代(n=28)	64.3%	7.1%	25.0%	7.1%	7.1%	10.7%	0.0%	28.6%	14.3%	7.1%
50歳代(n=51)	54.9%	9.8%	17.6%	7.8%	0.0%	11.8%	5.9%	21.6%	49.0%	7.8%
60歳代(n=62)	46.8%	22.6%	30.6%	8.1%	0.0%	16.1%	8.1%	14.5%	30.6%	8.1%
70歳代(n=72)	19.4%	29.2%	36.1%	5.6%	0.0%	9.7%	6.9%	20.8%	23.6%	12.5%
80歳代以上(n=43)	11.6%	32.6%	58.1%	2.3%	2.3%	7.0%	2.3%	14.0%	11.6%	25.6%
男性(n=104)	34.6%	18.3%	34.6%	9.6%	1.0%	8.7%	5.8%	19.2%	27.9%	12.5%
女性(n=179)	41.3%	21.8%	29.1%	3.9%	2.2%	13.4%	5.0%	21.2%	29.1%	10.6%

問10 あなたは運動やスポーツについて、今後どのようにしていきたいですか。(〇は3つまで)

全体では、「自分のペースでできる運動を取り入れたい」と回答した人が約 5 割となっています。

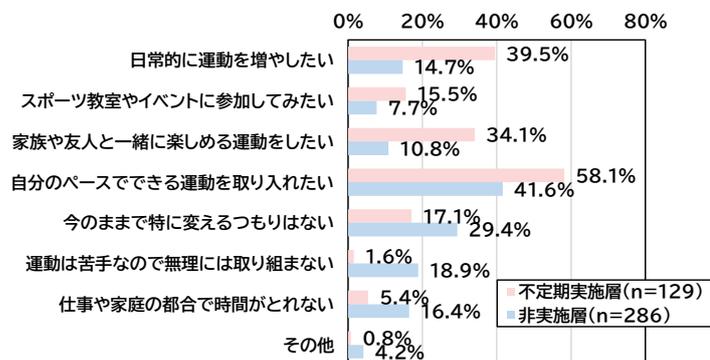
年齢別にみると、50 歳代以下は「日常的に運動を増やしたい」が 3~4 割と多く、一方で 60 歳代以上は「今のままで特に変えるつもりはない」が多くなっています。

性別にみると、女性の方が「自分のペースでできる運動を取り入れたい」と回答した人が多くっており、一方で男性の方が「今のままで特に変えるつもりはない」と回答した人が多くなっています。

	日常的に運動を増やしたい	加スポーツ教室やイベントに参加してみたい	家族や友人と一緒に楽しめる運動をしたい	自分のペースでできる運動を取り入れたい	今のままで特に変えるつもりはない	運動は苦手なので無理には取り組まない	仕事や家庭の都合で時間がとれない	その他
全体(n=702)	27.8%	10.8%	18.7%	49.4%	31.9%	8.5%	8.7%	2.4%
10歳代(n=25)	40.0%	0.0%	16.0%	36.0%	32.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代(n=38)	42.1%	15.8%	28.9%	42.1%	18.4%	13.2%	7.9%	0.0%
30歳代(n=37)	32.4%	18.9%	29.7%	64.9%	5.4%	0.0%	8.1%	0.0%
40歳代(n=76)	44.7%	9.2%	23.7%	53.9%	13.2%	6.6%	10.5%	2.6%
50歳代(n=109)	42.2%	14.7%	23.9%	52.3%	16.5%	7.3%	15.6%	1.8%
60歳代(n=135)	23.7%	8.1%	16.3%	52.6%	34.8%	12.6%	11.1%	1.5%
70歳代(n=177)	17.5%	11.9%	13.0%	46.9%	45.2%	7.9%	7.9%	1.7%
80歳代以上(n=93)	12.9%	7.5%	14.0%	46.2%	48.4%	11.8%	1.1%	8.6%
男性(n=315)	29.5%	9.8%	17.5%	46.0%	38.1%	4.1%	8.3%	1.9%
女性(n=369)	26.3%	11.7%	19.8%	53.1%	26.3%	12.5%	8.9%	3.0%

【参考】実施層でクロス集計

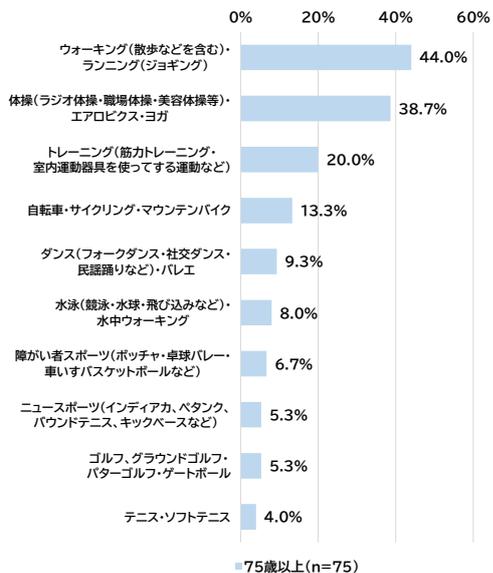
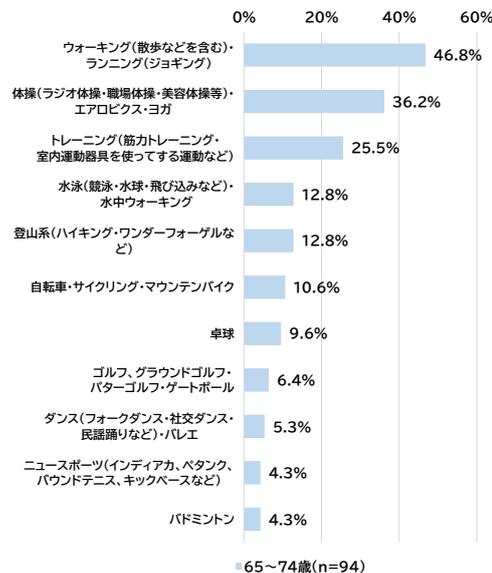
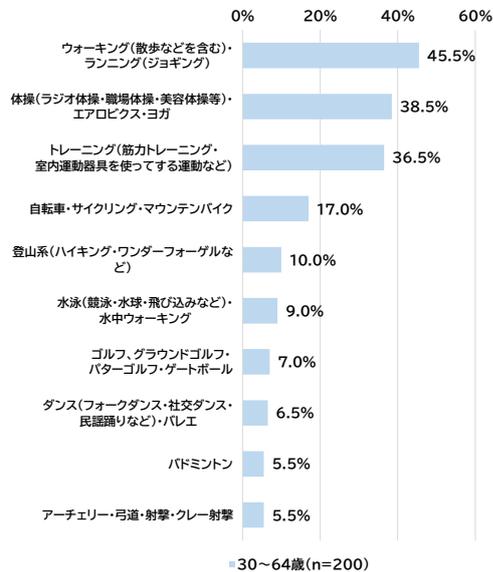
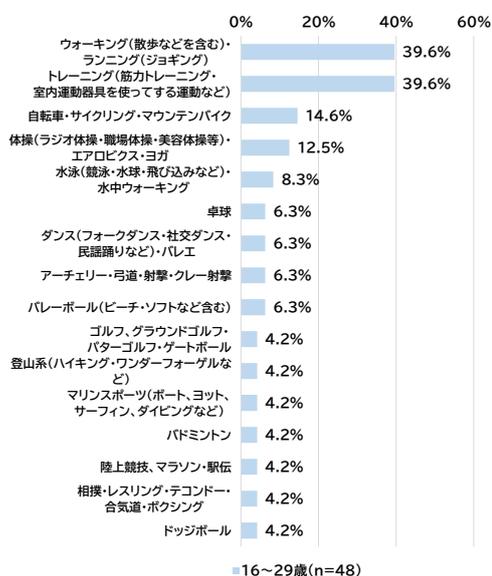
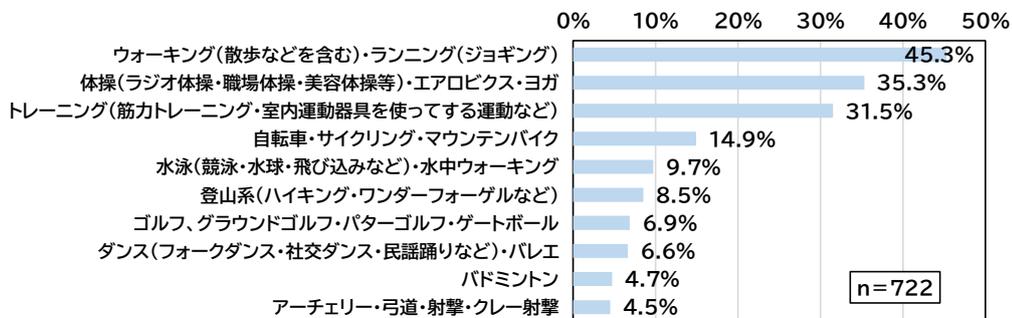
不定期実施層と非実施層共に「自分のペースでできる運動を取り入れたい」と回答した人が多く、運動への意欲はある程度見られます。不定期実施層は「日常的に運動を増やしたい」と回答した人が約 4 割と多くなっています。一方で、非実施層は不定期実施層に比べて、「今のままで特に変えるつもりはない」や「運動は苦手なので無理には取り組まない」、「仕事や家庭の都合で時間が取れない」が多くなっており、運動への意欲は低くなっています。



問11 今後あなたが始めてみたい運動やスポーツは何ですか。(3つまで)

全体では、「ウォーキング・ランニング」が 45%と最も多く、次いで「トレーニング」、「体操」、「自転車」、「水泳」が続きます。また、問 5 と異なり、「登山系」と回答する人が多くなっています。

【運動・スポーツの種類上位 10 位まで】



Ⅲ スポーツの観戦・ボランティアなどについて

問12 あなたはこの1年でスポーツを観戦する機会がありましたか。(〇はいくつでも)

全体では、「テレビ、インターネットなどで視聴した」が67.3%と最も多くなっています。また、本市では72.4%が何らかの形でスポーツを観戦しました。一方で、全国では68.5%(母数不明)となっており※1、本市のスポーツ観戦率はやや高いと言えます。ただし、「観戦する機会がなかった」や「関心がないため観戦していない」といった回答も目立っています。

性別にみると、男性よりも女性の方が「関心がないため観戦していない」と回答した人が1割ほど多くなっています。

	市内の会場で直接観戦した	市外の会場で直接観戦した	テレビ、インターネットなどで視聴した	パブリックビューイングで観戦した	観戦する機会がなかった	関心がないため観戦していない
全体(n=703)	6.0%	15.6%	67.3%	0.7%	12.9%	16.1%
10歳代(n=25)	8.0%	32.0%	64.0%	0.0%	12.0%	8.0%
20歳代(n=39)	5.1%	10.3%	53.8%	2.6%	20.5%	25.6%
30歳代(n=37)	2.7%	8.1%	51.4%	0.0%	13.5%	29.7%
40歳代(n=76)	11.8%	28.9%	57.9%	2.6%	14.5%	19.7%
50歳代(n=110)	4.5%	20.0%	70.9%	0.9%	11.8%	12.7%
60歳代(n=132)	5.3%	15.2%	72.0%	0.8%	9.8%	10.6%
70歳代(n=180)	6.7%	12.2%	73.3%	0.0%	11.7%	15.6%
80歳代以上(n=92)	2.2%	6.5%	63.0%	0.0%	18.5%	18.5%
男性(n=321)	6.5%	19.0%	72.6%	0.9%	12.5%	10.3%
女性(n=364)	5.2%	12.4%	62.4%	0.5%	13.5%	21.4%

※1 スポーツ庁(2025)令和6年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」,

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/chousa04/sports/1415963_00013.htm

(令和7年9月10日時点)より

問13 あなたはどのような取組・工夫があれば、スポーツを(さらに)観戦してみようと思いますか。

(〇は3つまで)

全体では「自宅などから行きやすい場所で開催されれば」が5割以上となっています。

年齢別にみると、40歳代及び70歳代以上で「観戦するつもりはない」と回答した人が2~3割ほどと多くなっています。

性別にみると、男性と女性で大きな差異は見られません。

	自宅などから行きやすい場所で開催されれば	入場料が安ければ	家族や友人・知人に誘われれば	大会に関する詳しい情報があれば	タレントや有名プロスポーツ選手の出演があれば	プロスポーツ選手との交流機会があれば	スポーツ以外のイベント等が同時に開催されれば	観戦するつもりはない	その他
全体(n=679)	54.8%	23.9%	33.7%	8.7%	15.5%	5.6%	8.1%	20.8%	2.8%
10歳代(n=25)	56.0%	36.0%	28.0%	8.0%	24.0%	8.0%	0.0%	20.0%	0.0%
20歳代(n=39)	61.5%	33.3%	51.3%	5.1%	12.8%	15.4%	5.1%	10.3%	0.0%
30歳代(n=37)	62.2%	21.6%	37.8%	8.1%	24.3%	18.9%	21.6%	5.4%	0.0%
40歳代(n=75)	45.3%	29.3%	28.0%	8.0%	24.0%	10.7%	13.3%	24.0%	0.0%
50歳代(n=109)	58.7%	34.9%	36.7%	11.9%	24.8%	5.5%	9.2%	12.8%	0.9%
60歳代(n=129)	63.6%	29.5%	30.2%	14.7%	14.0%	3.1%	10.9%	15.5%	3.9%
70歳代(n=167)	50.9%	15.0%	35.3%	4.8%	10.8%	1.2%	4.8%	28.1%	3.0%
80歳代以上(n=87)	49.4%	9.2%	26.4%	6.9%	4.6%	2.3%	3.4%	33.3%	9.2%
男性(n=311)	55.0%	22.5%	30.9%	11.3%	18.6%	6.8%	8.4%	19.3%	2.9%
女性(n=352)	55.1%	24.7%	35.5%	6.5%	13.1%	4.5%	7.7%	22.4%	2.8%

問14 あなたは、この1年間にスポーツボランティア(地域の運動会の手伝い、少年野球チームのお世話など)として携わったことがありますか。(〇は3つまで)

全体では、「したことがない」と回答した人が 88.4%となっています。また、本市の「その他」の母数を除いた 682名のうち10.6%がボランティアを実施しました。一方で、全国では 9.7%(母数不明)^{※1}、石川県では 9.6%(母数 1000 件)^{※2}となっており、本市のボランティア実施率はわずかに高いと言えます。

年齢別にみると、30 歳代が「クラブや団体の運営や世話をしたことがある」や「指導をしたことがある」と回答した人が多くなっています。

性別にみると、女性よりも男性の方が全体的にボランティアを実施している傾向にあります。

	指導をしたことがある	スポーツの審判をしたことがある	クラブや団体の運営や世話をしたことがある	スポーツ施設の管理の手伝いをしたことがある	大会やイベントの運営や世話をしたことがある	したことがない	その他
全体(n=696)	2.6%	2.4%	4.3%	0.7%	5.3%	88.4%	1.4%
10歳代(n=25)	0.0%	4.0%	4.0%	0.0%	4.0%	88.0%	0.0%
20歳代(n=39)	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	5.1%	94.9%	0.0%
30歳代(n=37)	8.1%	5.4%	10.8%	0.0%	8.1%	81.1%	0.0%
40歳代(n=74)	4.1%	4.1%	5.4%	1.4%	4.1%	87.8%	0.0%
50歳代(n=107)	2.8%	2.8%	3.7%	0.9%	6.5%	87.9%	0.9%
60歳代(n=132)	2.3%	1.5%	4.5%	0.8%	5.3%	88.6%	0.8%
70歳代(n=178)	2.8%	2.8%	3.4%	1.1%	6.2%	87.1%	2.2%
80歳代以上(n=92)	1.1%	0.0%	3.3%	0.0%	3.3%	93.5%	3.3%
男性(n=315)	5.1%	5.1%	5.7%	1.6%	6.7%	84.1%	1.6%
女性(n=363)	0.6%	0.3%	2.8%	0.0%	4.4%	92.0%	1.4%

※1 スポーツ庁(2025)令和 6 年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」,
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/chousa04/sports/1415963_00013.htm
 (令和7年9月10日時点)より編集

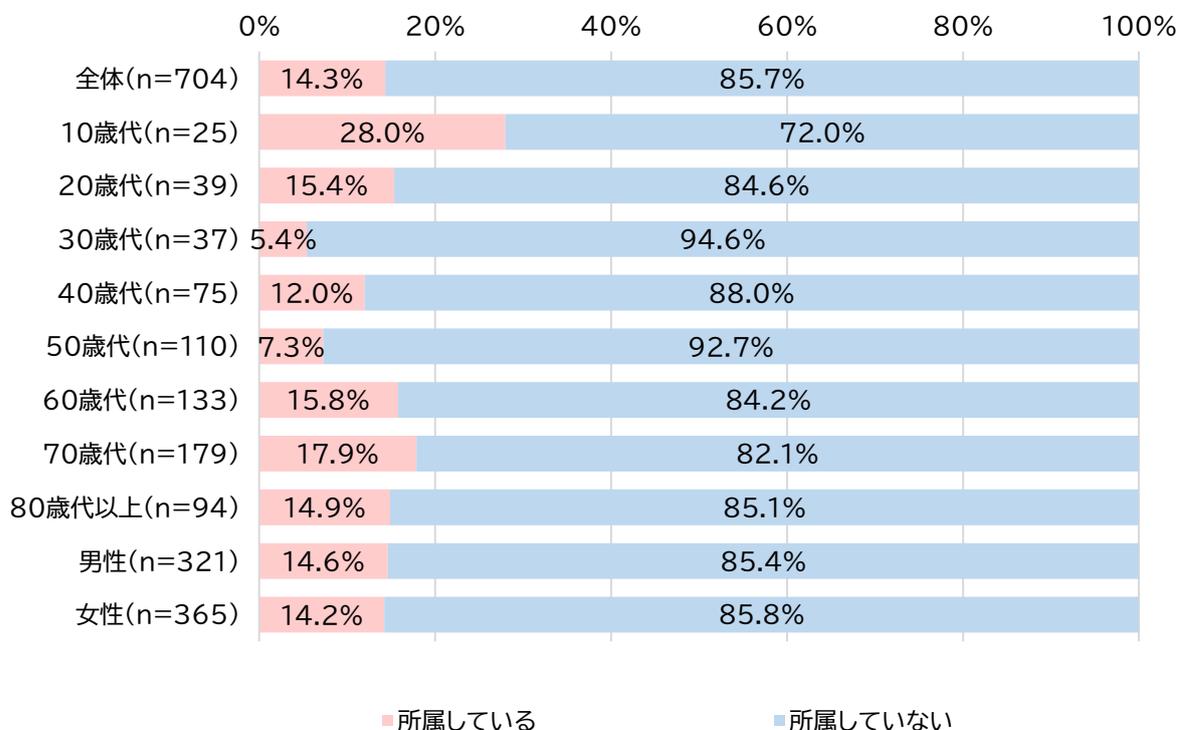
※2 石川県スポーツ推進計画 2021,
<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/sports/keikaku/documents/keikakuoverall.pdf>

問15 あなたは、現在定期的なスポーツ教室、クラブやサークルなどに所属していますか。(ひとつに〇)

全体では、「所属している」と回答した人は 14.3%となっています。

年齢別にみると、10 歳代の所属は多く、30 歳代及び 50 歳代の所属は低くなっています。

性別にみると、男性と女性で大きな差異はみられません。



【参考】

所属別に見た運動実施の状況について、所属している方の約 8 割が週 1 日以上運動を実施しています。

一方で、所属していない方の約 5 割が運動を行っておらず、所属と運動習慣に相関関係があることが言えます。

	所属している (n=99)	所属していない (n=594)
週に5日以上	19.2%	7.4%
週に3、4日	23.2%	10.6%
週に1、2日	37.4%	13.6%
月に1~3日	14.1%	8.9%
3か月に1~2日	2.0%	5.4%
年に1~3日	2.0%	4.2%
行っていない	2.0%	47.6%
わからない	0.0%	2.2%

問16 あなたがスポーツ教室、クラブやサークルに所属したきっかけは何ですか。当てはまるものをお選びください。(〇は3つまで)

(問15でスポーツ教室、クラブやサークルに「1. 所属している」と回答した人にお聞きします。)

全体では、「運動を継続的に実施するため」が 44.0%と最も多く、「友人や家族に誘われたから」が 43.0%、「スポーツを続けたかったから」が 31.0%と続きます。

性別にみると、男性の方が「友人や家族に誘われたから」や「スポーツを続けたかったから」が約 5 割と多くなっており、一方で女性の方が「運動を継続的に実施するため」が 5 割以上と多くなっています。

	楽しそうだったから	友人や家族に誘われたから	スポーツを続けたかったから	新しい人とのつながりを作りたかったから	学びたい指導者がいたから	運動を継続的に実施するため	その他
全体(n=100)	29.0%	43.0%	31.0%	19.0%	8.0%	44.0%	9.0%
10歳代(n=7)	14.3%	0.0%	42.9%	14.3%	0.0%	42.9%	14.3%
20歳代(n=6)	50.0%	66.7%	50.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代(n=2)	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%
40歳代(n=9)	22.2%	44.4%	33.3%	0.0%	11.1%	22.2%	33.3%
50歳代(n=8)	25.0%	25.0%	25.0%	37.5%	12.5%	50.0%	12.5%
60歳代(n=21)	23.8%	47.6%	33.3%	4.8%	14.3%	47.6%	4.8%
70歳代(n=32)	34.4%	43.8%	28.1%	21.9%	6.3%	53.1%	6.3%
80歳代以上(n=13)	38.5%	46.2%	30.8%	46.2%	7.7%	53.8%	0.0%
男性(n=47)	27.7%	51.1%	48.9%	17.0%	6.4%	34.0%	10.6%
女性(n=51)	31.4%	33.3%	15.7%	21.6%	9.8%	54.9%	7.8%

IV 羽咋市のスポーツに関する取り組みについて

問17 スポーツ振興に向けて、羽咋市に期待することはどれですか。(〇は3つまで)

全体では、「年齢やライフステージに合わせた運動やスポーツ活動の推進」や「スポーツ施設・設備の整備・充実」が約4割と多くなっています。

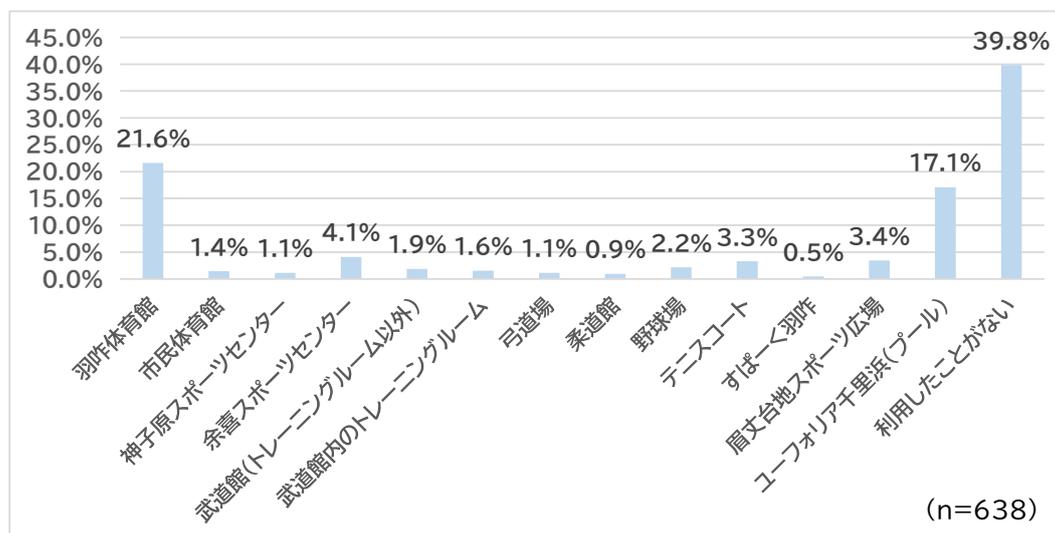
年齢別にみると、20歳代では「各種スポーツ大会・イベントの開催」が多くなっており、30歳代では「地域のクラブやサークルの育成・支援」が多くなっています。

年齢別にみると、男性の方が「スポーツ施設・設備の整備・充実」や「各種スポーツ大会・イベントの開催」が多くなっており、一方で、女性の方が「年齢やライフステージに合わせた運動やスポーツ活動の推進」が多くなっています。

	年齢やライフステージに合わせた運動やスポーツ活動の推進	スポーツ施設・設備の整備・充実	各種スポーツ大会・イベントの開催	広報・PRの充実	普及スポーツインセンティブの創設	地域のクラブやサークルの育成・支援	障がい者スポーツの推進	スポーツを通じた交流の促進	特にあてはまるものはない
全体(n=670)	42.8%	40.4%	17.9%	8.7%	6.0%	13.7%	3.4%	9.7%	22.4%
10歳代(n=25)	24.0%	52.0%	28.0%	4.0%	8.0%	16.0%	4.0%	8.0%	12.0%
20歳代(n=39)	28.2%	41.0%	41.0%	12.8%	5.1%	10.3%	0.0%	5.1%	20.5%
30歳代(n=36)	36.1%	52.8%	19.4%	8.3%	5.6%	22.2%	2.8%	5.6%	16.7%
40歳代(n=75)	32.0%	58.7%	28.0%	8.0%	9.3%	18.7%	1.3%	10.7%	18.7%
50歳代(n=106)	42.5%	61.3%	24.5%	7.5%	8.5%	8.5%	2.8%	12.3%	15.1%
60歳代(n=132)	46.2%	33.3%	15.9%	10.6%	7.6%	13.6%	3.0%	12.9%	22.0%
70歳代(n=166)	53.0%	32.5%	9.0%	9.6%	1.8%	15.1%	3.0%	8.4%	23.5%
80歳代以上(n=80)	43.8%	16.3%	7.5%	5.0%	6.3%	11.3%	10.0%	6.3%	40.0%
男性(n=304)	37.8%	45.7%	23.0%	10.9%	5.3%	15.8%	3.0%	11.5%	20.4%
女性(n=348)	47.7%	35.9%	13.8%	7.2%	6.9%	11.8%	4.0%	7.5%	23.9%

問18 過去に学校での授業・部活以外で羽咋市にある公共スポーツ施設(学校体育施設は除く)を利用したことはありますか。最も利用した施設を1つだけお選びください。(ひとつに○)

「利用したことがない」が約4割と非常に多く、次いで「羽咋体育館」が21.6%、「ユーフォリア千里浜(プール)」が17.1%と続きます。その他はすべて5%以下となっています。



	票数	割合
羽咋体育館	138	21.6%
市民体育館	9	1.4%
神子原スポーツセンター	7	1.1%
余喜スポーツセンター	26	4.1%
武道館(トレーニングルーム以外)	12	1.9%
武道館内のトレーニングルーム	10	1.6%
弓道場	7	1.1%
柔道館	6	0.9%
野球場	14	2.2%
テニスコート	21	3.3%
すぱーく羽咋	3	0.5%
盾丈台地スポーツ広場	22	3.4%
ユーフォリア千里浜(プール)	109	17.1%
利用したことがない	254	39.8%
合計	638	100.0%
無回答	36	

問19 その施設で羽咋市に改善してほしいことはありますか。(〇は3つまで)

全体では、「暑さ・寒さ対策への対応」が 33.7%、「施設の改修」が 28.8%、「スポーツ設備、器具・用具の充実」が 25.1%と多くなっています。

性別にみると、男性の方が「施設の改修」や「スポーツ設備、器具、用具の充実」と回答した人が多くなっています。

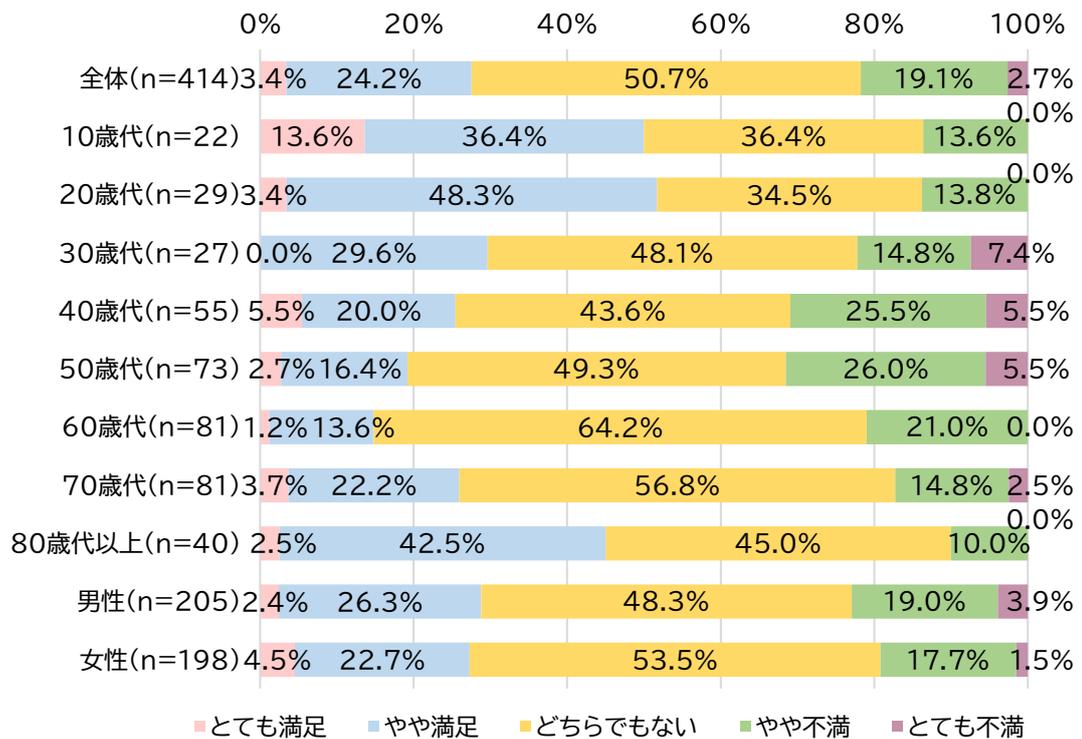
	利用料金の見直し	利用時間帯の延長	利用時間区分の見直し	施設の改修	利用手続きの簡素化	暑さ・寒さ対策への対応	スポーツ設備、器具・用具の充実	バリアフリーへの対応	特にあてはまるものはない	その他
全体(n=407)	12.5%	4.7%	2.9%	28.7%	7.6%	33.4%	25.1%	5.9%	26.0%	4.7%
10歳代(n=22)	18.2%	4.5%	9.1%	27.3%	4.5%	40.9%	13.6%	4.5%	31.8%	0.0%
20歳代(n=29)	20.7%	3.4%	3.4%	34.5%	3.4%	41.4%	27.6%	0.0%	17.2%	3.4%
30歳代(n=27)	11.1%	0.0%	0.0%	33.3%	3.7%	22.2%	11.1%	0.0%	40.7%	3.7%
40歳代(n=55)	10.9%	3.6%	5.5%	29.1%	16.4%	52.7%	29.1%	9.1%	12.7%	7.3%
50歳代(n=75)	16.0%	8.0%	1.3%	36.0%	5.3%	36.0%	42.7%	4.0%	21.3%	2.7%
60歳代(n=81)	7.4%	3.7%	0.0%	22.2%	9.9%	32.1%	25.9%	4.9%	25.9%	3.7%
70歳代(n=77)	9.1%	3.9%	2.6%	29.9%	2.6%	22.1%	16.9%	9.1%	31.2%	9.1%
80歳代以上(n=37)	18.9%	8.1%	8.1%	18.9%	13.5%	24.3%	10.8%	10.8%	35.1%	2.7%
男性(n=206)	11.7%	3.4%	2.9%	33.0%	5.8%	29.6%	29.6%	4.4%	24.8%	5.8%
女性(n=191)	14.1%	6.3%	3.1%	23.6%	9.4%	36.6%	17.8%	7.3%	27.7%	3.7%

問20 公共スポーツ施設の利用環境の満足度についてお答えください。(ひとつに○)

全体では、「どちらでもない」が 50.7%となっています。また、満足度(「とても満足」と「やや満足」の合計)は 27.6%となっています。

年齢別にみると、10～20 歳代及び 80 歳代以上は満足度が 4 割以上となっています。一方で、30～70 歳代は満足度が 3 割以下となっています。

性別にみると、男性と女性で大きな差異は見られません。



V その他のスポーツについて

問21 あなたは、下記のスポーツで興味があるものをお答えください。(〇はいくつでも)

全体では、「どれも興味がない」と回答した人が約 6 割と最も多く、「ニュースポーツ」が 25.6%、「e スポーツ」が 18.0%となっています。

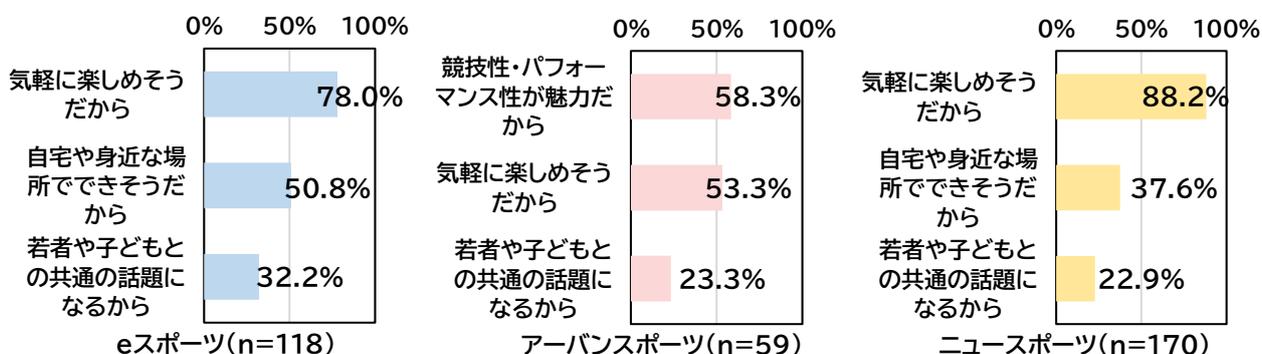
年齢別にみると、年齢が下がるにつれて「e スポーツ」への関心が高くなっており、一方で年齢が上がるにつれて「どれも興味がない」と回答した人が多くなっています。

性別にみると、男性の方が「e スポーツ」への関心は高く、女性の方が「ニュースポーツ」への関心が高くなっています。

	e ス ポ ー ツ	ア ー バ ン ス ポ ー ツ	ニ ュ ー ス ポ ー ツ	ど れ も 興 味 が な い
全体(n=679)	18.0%	8.8%	25.6%	58.8%
10歳代(n=25)	48.0%	20.0%	16.0%	36.0%
20歳代(n=39)	48.7%	17.9%	23.1%	35.9%
30歳代(n=37)	29.7%	27.0%	35.1%	40.5%
40歳代(n=75)	26.7%	18.7%	24.0%	49.3%
50歳代(n=109)	20.2%	11.9%	30.3%	56.0%
60歳代(n=133)	12.0%	4.5%	29.3%	60.9%
70歳代(n=168)	7.7%	1.8%	23.8%	69.6%
80歳代以上(n=85)	9.4%	2.4%	20.0%	69.4%
男性(n=312)	22.4%	11.2%	22.4%	58.7%
女性(n=352)	13.9%	7.1%	29.0%	58.2%

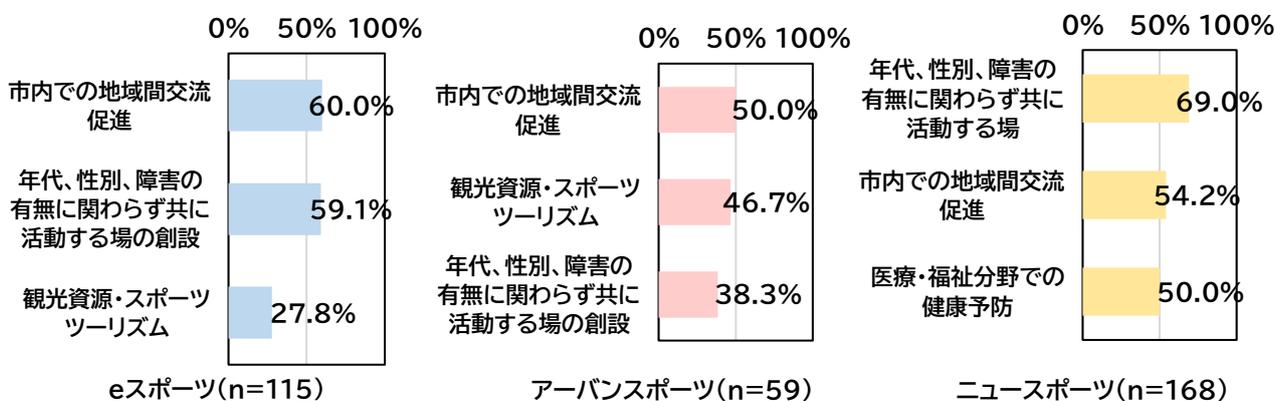
問22 あなたがそのスポーツに興味がある理由は何ですか。枠の中にそれぞれあてはまる番号3つまでお書きください。

全体では「気軽に楽しめそうだから」が高く、特にニュースポーツは88.2%、eスポーツは78.0%と非常に高くなっています。また、アーバンスポーツは「競技性・パフォーマンス性が魅力だから」が58.3%と高くなっています。



問23 そのスポーツは今後羽咋市において、どのような場面で推進していくべきですか。枠の中にそれぞれあてはまる番号3つまでお書きください。

どのスポーツも「市内での地域間交流促進」と「年代、性別、障害の有無に関わらず共に活動する場の創設」が高い傾向にあります。ニュースポーツは「医療・福祉分野での健康予防」が50%と高く、アーバンスポーツは「観光資源・スポーツツーリズム」が47.5%と高くなっています。



自由意見(要約)

1. 施設・設備の改善(例:体育館・冷暖房・トイレ・照明など)
 - 羽咋体育館にエアコンを設置してほしい
 - 野球場の修繕・新設希望
 - トレーニングルームの清掃・整理・拡充
 - 公民館や武道館の冷暖房・シャワー設備の改善
 - 鏡付きスタジオや卓球場の常設希望
2. 予約・利用方法の改善
 - 公共施設の予約を電話ではなくネットでできるようにしてほしい
 - 使用料の見直し(高齢者・市民割引など)
 - 体育館でのウォーキング利用時の料金についての疑問
3. 運動機会・プログラムの提供
 - 市民大会やイベントの開催・PR 活動の強化
 - 高齢者向けの筋トレ教室や水泳教室の提案
 - 若者・子育て世代向けのクラブ活動やヨガ教室の拡充
 - SNS や広報での情報発信の強化
4. 高齢者・障害者への配慮
 - 無理なく続けられる運動の提供(ストレッチ、ウォーキングなど)
 - 体調に合わせた参加ができる場所の整備
 - フレイル予防や健康寿命延伸のための施策
 - 介護度が高くても参加できる運動の場の希望
5. 子育て世代・若者への配慮
 - 送迎や保護者の負担でスポーツ参加が難しい家庭への配慮
 - 土日開催の教室希望
 - 若者向けの交流型スポーツイベントの提案
6. 運動環境・場所の整備
 - 公園のベンチや日陰の整備
 - サイクリング道や遊歩道の補修
 - 室内でランニングできる施設の希望
 - スケボー場の新設希望

2 小学生・中学生アンケート調査結果

調査票の発送・回収

発送・回収等の概要

①対象者	羽咋市立の小学5年生 135名 // 中学2年生 128名
②実施期間	2025年7月16日～8月12日
③配布・回収方法	各学校から生徒へ案内用紙を配布 案内用紙に記載されたQRコードから、WEB回答
④回収状況	小学5年生 114件(回収率:84.4%) 中学2年生 128件(回収率:100%)

調査結果の概要

運動への愛着について

- 全体では、「好き」(「好き」と「やや好き」の合計)が88.0%、「きれい」(「ややきれい」と「きれい」の合計)が12.0%となっています。
- 「好き」(「好き」と「やや好き」の合計)の割合は、市の小学5年生男子が98.2%(全国は93.3%)、小学5年生女子が85.2%(全国は86.2%)、中学2年生男子が96.6%(全国は90.3%)、中学2年生女子が75.4%(全国は76.8%)となっており、全国と比較すると男子は高く、女子は若干低くなっています。

運動の大切さについて

- 全体をみると、「大切である」(「大切である」と「やや大切である」の合計)が91.3%、「大切ではない」(「あまり大切ではない」と「大切ではない」の合計)が8.7%となっています。
- 「大切である」(「大切である」と「やや大切である」の合計)の割合は、市の小学5年生男子が96.6%(全国は93.8%)、小学5年生女子が90.7%(全国は90.4%)、中学2年生男子が94.9%(全国は92.5%)、中学2年生女子が86.2%(全国は85.2%)となっており、いずれも全国と比べて高くなっています。

実施頻度について

- 全体をみると、「週に3、4日」が29.2%と最も多く、次いで「週に1、2日」が26.0%となっており、週1日以上(「週に5日以上」と「週に3、4日」、「週に1、2日」の合計)が71.8%となっています。
- 週1日以上の実施について、小学5年生が83.3%、中学2年生が61.7%となっており、学年が上がると頻度が下がる傾向にあります。

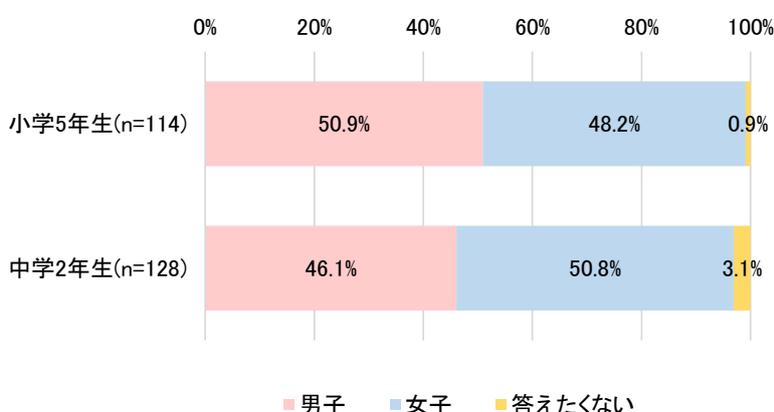
運動クラブ・部活動への所属について

- 全体をみると、「学校の運動クラブ活動・運動部活動に入っている」が 45.0%と最も多く、次いで「入ったことがない」が 26.4%、「地域のスポーツクラブに入っている」が 18.6%となっています。
- 小学 5 年生は「地域のスポーツクラブに入っている」と「入ったことがない」がともに 34.2%となっており、中学 2 年生は「学校の運動クラブ活動・運動部活動に入っている」が 64.8%、次いで「入ったことがない」が 19.5%となっています。
- 「入っている(学校の運動クラブ活動・運動部活動に入っていると地域のスポーツクラブに入っているの合計)」の割合は、市の小学5年生男子が 69.0%(全国は 66.7%)、小学5年生女子が 80.0%(全国は 51.0%)、中学 2 年生男子が 89.9%となっており、いずれも全国と比べて高くなっています。一方、市の中学2年生女子が 50.8%(全国は 57.5%)、となっており、全国と比べて低くなっています。

調査結果の集計・とりまとめ

調査結果の集計

問1 あなたの性別・学年を教えてください。



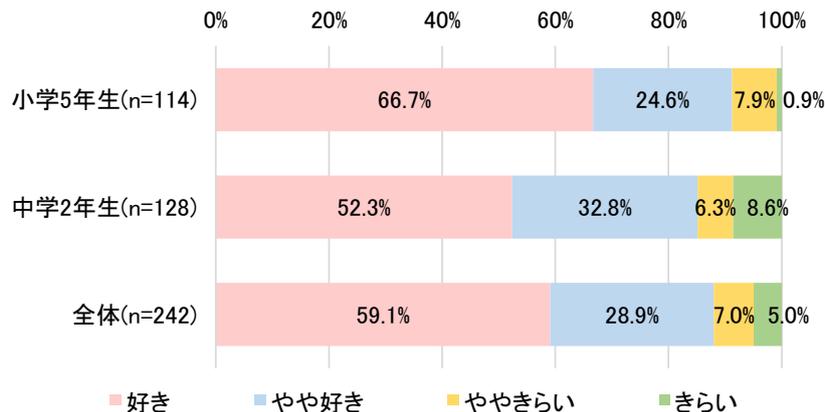
	小学5年生		中学2年生		全体	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
男子	58	50.9%	59	46.1%	117	48.3%
女子	55	48.2%	65	50.8%	120	49.6%
答えたくない	1	0.9%	4	3.1%	5	2.1%
全体	114	100%	128	100%	242	100%

問2 あなたは、スポーツや運動をすることは好きですか。(ひとつに○)

全体では、「好き」(「好き」と「やや好き」の合計)が 88.0%、「嫌い」(「やや嫌い」と「嫌い」の合計)が 12.0%となっています。

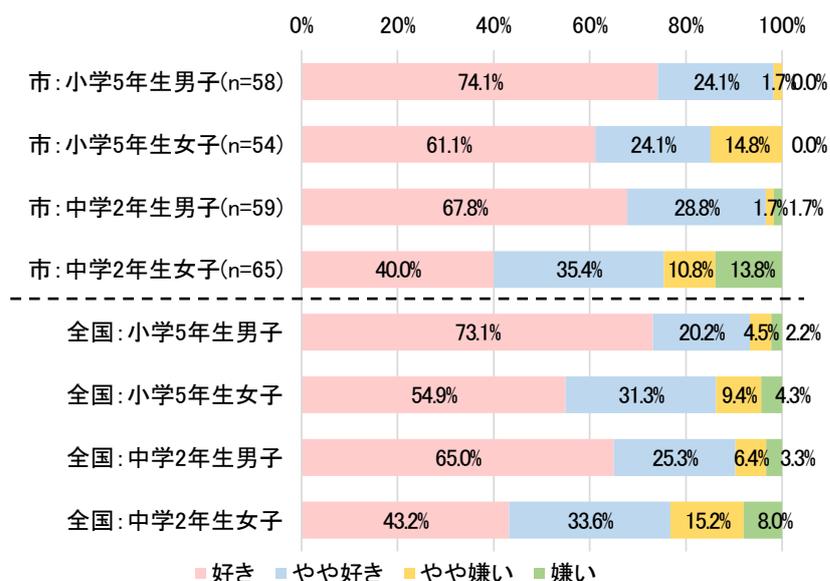
中学2年生の「嫌い」の割合は 8.6%となっており、小学5年生と比較して高くなっています。

「好き」(「好き」と「やや好き」の合計)の割合は、市の小学5年生男子が 98.2%(全国は 93.3%)、小学5年生女子が 85.2%(全国は 86.2%)、中学2年生男子が 96.6%(全国は 90.3%)、中学2年生女子が 75.4%(全国は 76.8%)となっており、全国と比較すると男子は高く、女子は若干低くなっています。



	小学5年生		中学2年生		全体	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
好き	76	66.7%	67	52.3%	143	59.1%
やや好き	28	24.6%	42	32.8%	70	28.9%
やや嫌い	9	7.9%	8	6.3%	17	7.0%
嫌い	1	0.9%	11	8.6%	12	5.0%
合計	114	100%	128	100%	242	100%

【国の調査との比較】※



※ スポーツ庁 令和6年度運動能力・全国体力 運動習慣等調査報告書(令和7年9月10日時点)より

https://www.mext.go.jp/sports/content/20241217-spt_sseisaku02-000039139_02.pdf

問3 あなたが、スポーツや運動をするのがきらいな理由は何ですか。(〇は3つまで)

全体をみると、「得意ではないから」が 82.8%と最も多く、次いで「疲れるから」が 55.2%、「楽しくないから」が 27.6%となっています。

中学2年生は小学5年生と比較して「疲れるから」が多くなっています。

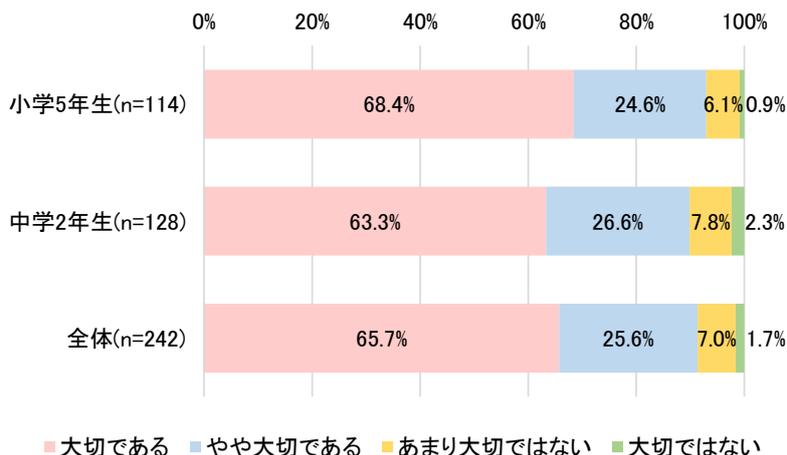
	小学5年生 (n=10)	中学2年生 (n=19)	全体 (n=29)
楽しくないから	20.0%	31.6%	27.6%
疲れるから	30.0%	68.4%	55.2%
得意ではないから	70.0%	89.5%	82.8%
試合に負けるのがいやだから	0.0%	0.0%	0.0%
仲間といっしょに活動することがいやだから	10.0%	15.8%	13.8%
特に理由はない	20.0%	0.0%	6.9%
その他	0.0%	10.5%	6.9%

	小学5年生 (n=10)		中学2年生 (n=19)		全体 (n=29)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
楽しくないから	2	20.0%	6	31.6%	8	27.6%
疲れるから	3	30.0%	13	68.4%	16	55.2%
得意ではないから	7	70.0%	17	89.5%	24	82.8%
試合に負けるのがいやだから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
仲間といっしょに活動することがいやだから	1	10.0%	3	15.8%	4	13.8%
特に理由はない	2	20.0%	0	0.0%	2	6.9%
その他	0	0.0%	2	10.5%	2	6.9%

問4 あなたにとって、スポーツや運動は大切なものですか。(ひとつに○)

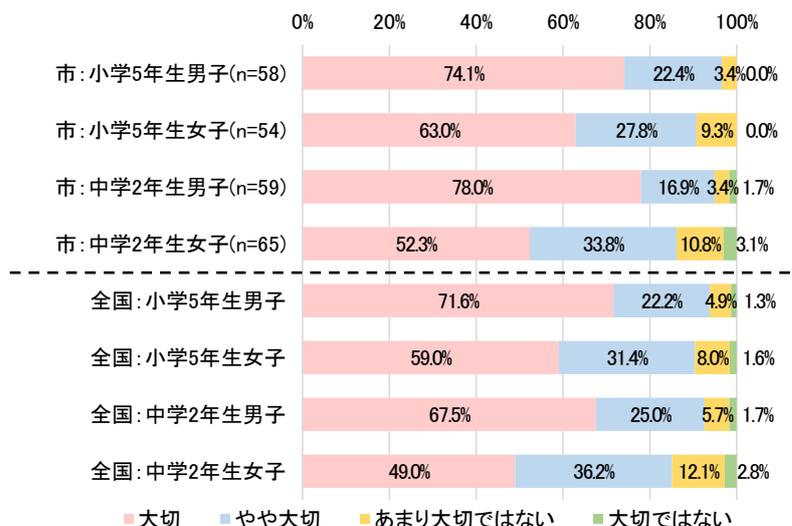
全体をみると、「大切である」(「大切である」と「やや大切である」の合計)が 91.3%、「大切ではない」(「あまり大切ではない」と「大切ではない」の合計)が 8.7%となっています。

「大切である」(「大切である」と「やや大切である」の合計)の割合は、市の小学5年生男子が 96.6% (全国は 93.8%)、小学5年生女子が 90.7%(全国は 90.4%)、中学2年生男子が 94.9%(全国は 92.5%)、中学2年生女子が 86.2%(全国は 85.2%)となっており、いずれも全国と比べて高くなっています。



	小学5年生		中学2年生		全体	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
大切である	78	68.4%	81	63.3%	159	65.7%
やや大切である	28	24.6%	34	26.6%	62	25.6%
あまり大切ではない	7	6.1%	10	7.8%	17	7.0%
大切ではない	1	0.9%	3	2.3%	4	1.7%
合計	114	100%	128	100%	242	100%

【国の調査との比較】※

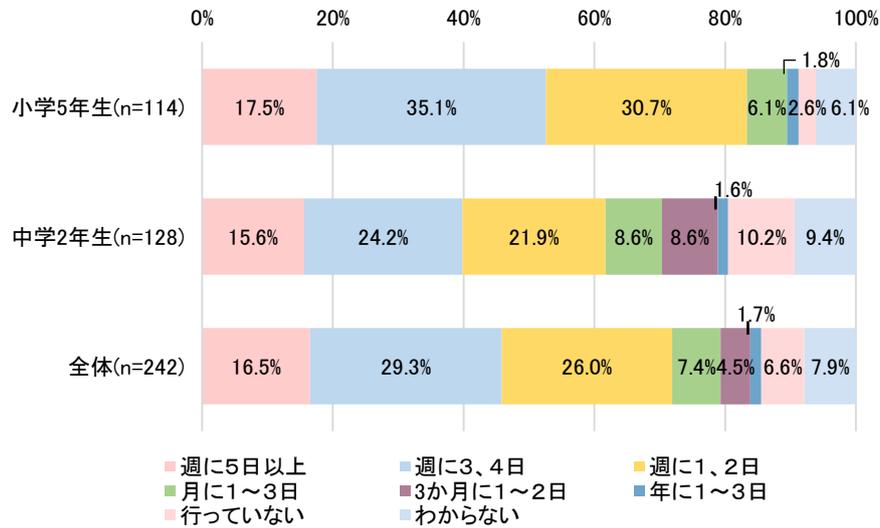


※ スポーツ庁 令和6年度運動能力・全国体力 運動習慣等調査報告書(令和7年9月10日時点)より
https://www.mext.go.jp/sports/content/20241217-spt_sseisaku02-000039139_02.pdf

問5 あなたは、学校の授業や部活以外で、この1年間に1回あたり30分以上の運動やスポーツをどの程度行いましたか。(ひとつに○)

全体をみると、「週に3、4日」が 29.2%と最も多く、次いで「週に1、2日」が 26.0%となっており、週1日以上(「週に5日以上」と「週に3、4日」、「週に1、2日」の合計)が 71.8%となっています。

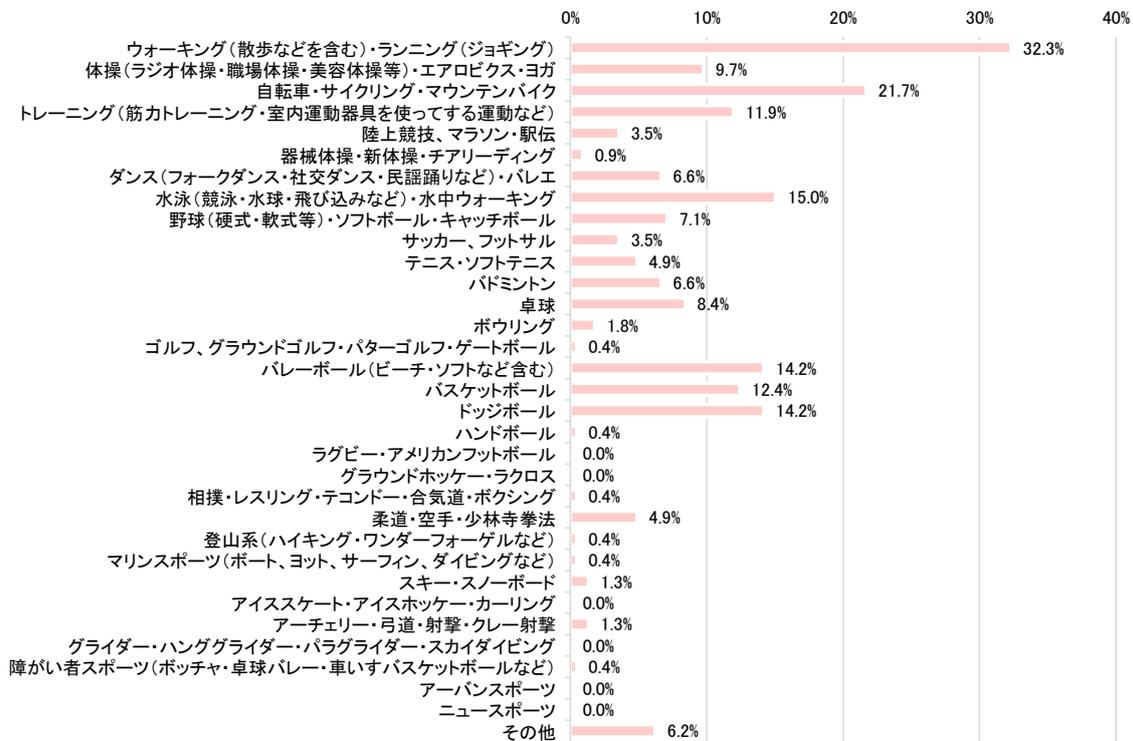
週1日以上の実施について、小学5年生が 83.3%、中学2年生が 61.7%となっており、頻度が下がっています。



	小学5年生		中学2年生		全体	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
週に5日以上	20	17.5%	20	15.6%	40	16.5%
週に3、4日	40	35.1%	31	24.2%	71	29.3%
週に1、2日	35	30.7%	28	21.9%	63	26.0%
月に1～3日	7	6.1%	11	8.6%	18	7.4%
3か月に1～2日	0	0.0%	11	8.6%	11	4.5%
年に1～3日	2	1.8%	2	1.6%	4	1.7%
行っていない	3	2.6%	13	10.2%	16	6.6%
わからない	7	6.1%	12	9.4%	19	7.9%
合計	114	100%	128	100%	242	100%

問6-1 この1年間で1回あたり30分以上行った運動・スポーツは何ですか。(○は3つまで)

全体をみると「ウォーキング(散歩などを含む)・ランニング(ジョギング)」が 32.3%、「自転車・サイクリング・マウンテンバイク」が 21.7%となっています。



(n=226)

	票数	割合
ウォーキング(散歩などを含む)・ランニング(ジョギング)	73	32.3%
体操(ラジオ体操・職場体操・美容体操等)・エアロビクス・ヨガ	22	9.7%
自転車・サイクリング・マウンテンバイク	49	21.7%
トレーニング(筋力トレーニング・室内運動器具を使ってする運動など)	27	11.9%
陸上競技、マラソン・駅伝	8	3.5%
器械体操・新体操・チアリーディング	2	0.9%
ダンス(フォークダンス・社交ダンス・民謡踊りなど)・バレエ	15	6.6%
水泳(競泳・水球・飛び込みなど)・水中ウォーキング	34	15.0%
野球(硬式・軟式等)・ソフトボール・キャッチボール	16	7.1%
サッカー、フットサル	8	3.5%
テニス・ソフトテニス	11	4.9%
バドミントン	15	6.6%
卓球	19	8.4%
ボウリング	4	1.8%
ゴルフ、グラウンドゴルフ・パターゴルフ・ゲートボール	1	0.4%
バレーボール(ビーチ・ソフトなど含む)	32	14.2%
バスケットボール	28	12.4%
ドッジボール	32	14.2%
ハンドボール	1	0.4%
ラグビー・アメリカンフットボール	0	0.0%
グラウンドホッケー・ラクロス	0	0.0%
相撲・レスリング・テコンドー・合気道・ボクシング	1	0.4%
柔道・空手・少林寺拳法	11	4.9%
登山系(ハイキング・ワンダーフォーゲルなど)	1	0.4%
マリンスポーツ(ボート、ヨット、サーフィン、ダイビングなど)	1	0.4%
スキー・スノーボード	3	1.3%
アイススケート・アイスホッケー・カーリング	0	0.0%
アーチェリー・弓道・射撃・クレー射撃	3	1.3%
グライダー・ハンググライダー・パラグライダー・スカイダイビング	0	0.0%
障がい者スポーツ(ボッチャ・卓球バレー・車いすバスケットボールなど)	1	0.4%
アーバンスポーツ	0	0.0%
ニュースポーツ	0	0.0%
その他	14	6.2%

問6-2 問6-1で答えた運動やスポーツをした理由は何ですか。(〇は3つまで)

全体をみると、「楽しいから」が 58.8%と最も多く、次いで「上手になりたい・勝ちたいから」が 45.1%となっています。

	小学5年生 (n=111)	中学2年生 (n=115)	全体 (n=226)
楽しいから	60.4%	57.4%	58.8%
上手になりたい・勝ちたいから	45.9%	44.3%	45.1%
スポーツが好きだから	29.7%	20.0%	24.8%
身体を動かしたいから	30.6%	28.7%	29.6%
得意なことをやりたいから	7.2%	6.1%	6.6%
友人・仲間といっしょに遊べるから	9.9%	11.3%	10.6%
ストレスを発散できるから	5.4%	5.2%	5.3%
特に理由はない	6.3%	7.8%	7.1%
その他	7.2%	5.2%	6.2%

	小学5年生 (n=111)		中学2年生 (n=115)		全体 (n=226)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
楽しいから	67	60.4%	66	57.4%	133	58.8%
上手になりたい・勝ちたいから	51	45.9%	51	44.3%	102	45.1%
スポーツが好きだから	33	29.7%	23	20.0%	56	24.8%
身体を動かしたいから	34	30.6%	33	28.7%	67	29.6%
得意なことをやりたいから	8	7.2%	7	6.1%	15	6.6%
友人・仲間といっしょに遊べるから	11	9.9%	13	11.3%	24	10.6%
ストレスを発散できるから	6	5.4%	6	5.2%	12	5.3%
特に理由はない	7	6.3%	9	7.8%	16	7.1%
その他	8	7.2%	6	5.2%	14	6.2%

問6-3 スポーツや運動をしていない理由は何ですか。(〇は3つまで)

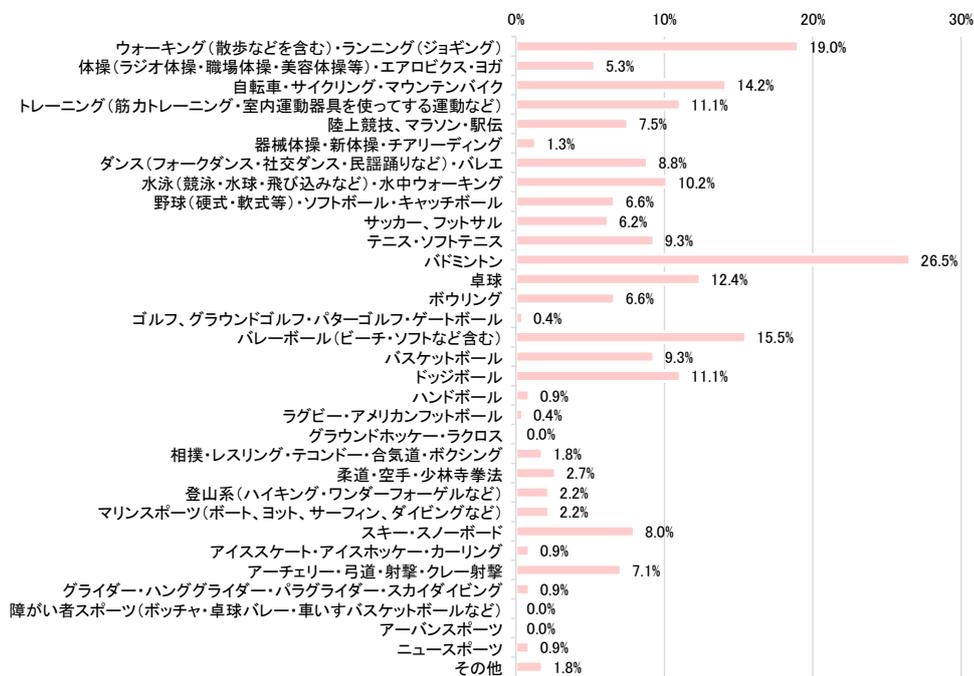
全体をみると、「一緒にスポーツや運動をする(遊ぶ)仲間がないから」が31.3%と最も多く、次いで「得意ではないから」が24.1%となっています。

	小学5年生 (n=3)	中学2年生 (n=13)	全体 (n=16)
一緒にスポーツや運動をする(遊ぶ)仲間がないから	0.0%	38.5%	31.3%
勉強や習いごとなどが忙しいから	33.3%	26.3%	20.7%
まわりにスポーツや運動ができる場所がないから	33.3%	10.5%	10.3%
楽しくないから	0.0%	5.3%	3.4%
疲れるから	33.3%	26.3%	20.7%
得意ではないから	33.3%	31.6%	24.1%
試合に負けるのがいやだから	0.0%	0.0%	0.0%
仲間といっしょに活動することが嫌だから	0.0%	0.0%	0.0%
特に理由はない	0.0%	5.3%	3.4%
その他	0.0%	10.5%	6.9%

	小学5年生 (n=3)		中学2年生 (n=13)		全体 (n=16)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
一緒にスポーツや運動をする(遊ぶ)仲間がないから	0	0.0%	5	38.5%	5	31.3%
勉強や習いごとなどが忙しいから	1	33.3%	5	26.3%	6	20.7%
まわりにスポーツや運動ができる場所がないから	1	33.3%	2	10.5%	3	10.3%
楽しくないから	0	0.0%	1	5.3%	1	3.4%
疲れるから	1	33.3%	5	26.3%	6	20.7%
得意ではないから	1	33.3%	6	31.6%	7	24.1%
試合に負けるのがいやだから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
仲間といっしょに活動することが嫌だから	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
特に理由はない	0	0.0%	1	5.3%	1	3.4%
その他	0	0.0%	2	10.5%	2	6.9%

問7 今後やりたいスポーツや運動は何ですか。(〇は3つまで)

全体をみると、「バドミントン」が 26.5%と最も多く、次いで「ウォーキング(散歩などを含む)・ランニング(ジョギング)」が 19.0%、「バレーボール(ビーチ・ソフトなど含む)」が 15.5%となっています。



(n=242)

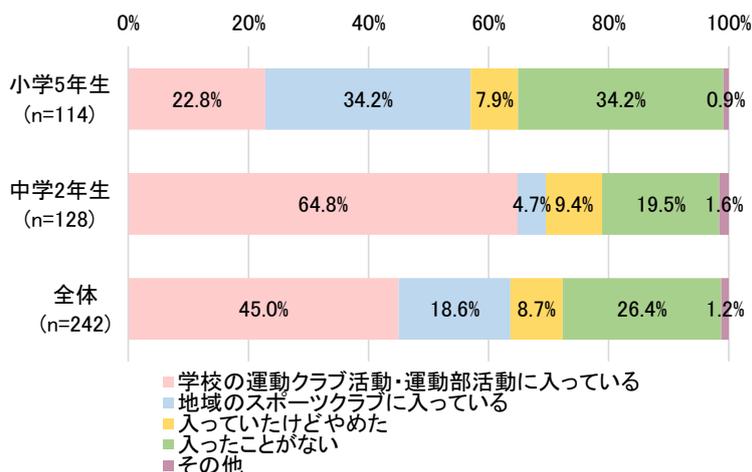
	票数	割合
ウォーキング(散歩などを含む)・ランニング(ジョギング)	43	19.0%
体操(ラジオ体操・職場体操・美容体操等)・エアロビクス・ヨガ	12	5.3%
自転車・サイクリング・マウンテンバイク	32	14.2%
トレーニング(筋力トレーニング・室内運動器具を使ってする運動など)	25	11.1%
陸上競技、マラソン・駅伝	17	7.5%
器械体操・新体操・チアリーディング	3	1.3%
ダンス(フォークダンス・社交ダンス・民謡踊りなど)・バレエ	20	8.8%
水泳(競泳・水球・飛び込みなど)・水中ウォーキング	23	10.2%
野球(硬式・軟式等)・ソフトボール・キャッチボール	15	6.6%
サッカー、フットサル	14	6.2%
テニス・ソフトテニス	21	9.3%
バドミントン	60	26.5%
卓球	28	12.4%
ボウリング	15	6.6%
ゴルフ、グラウンドゴルフ・パターゴルフ・ゲートボール	1	0.4%
バレーボール(ビーチ・ソフトなど含む)	35	15.5%
バスケットボール	21	9.3%
ドッジボール	25	11.1%
ハンドボール	2	0.9%
ラグビー・アメリカンフットボール	1	0.4%
グラウンドホッケー・ラクロス	0	0.0%
相撲・レスリング・テコンドー・合気道・ボクシング	4	1.8%
柔道・空手・少林寺拳法	6	2.7%
登山系(ハイキング・ワンダーフォーゲルなど)	5	2.2%
マリンスポーツ(ボート、ヨット、サーフィン、ダイビングなど)	5	2.2%
スキー・スノーボード	18	8.0%
アイススケート・アイスホッケー・カーリング	2	0.9%
アーチェリー・弓道・射撃・クレー射撃	16	7.1%
グライダー・ハンググライダー・パラグライダー・スカイダイビング	2	0.9%
障がい者スポーツ(ボッチャ・卓球バレー・車いすバスケットボールなど)	0	0.0%
アーバンスポーツ	0	0.0%
ニュースポーツ	2	0.9%
その他	4	1.8%

問8 学校の運動クラブ活動・運動部活動や地域のスポーツクラブに入っていますか。(ひとつに○)

全体をみると、「学校の運動クラブ活動・運動部活動に入っている」が 45.0%と最も多く、次いで「入ったことがない」が 26.4%、「地域のスポーツクラブに入っている」が 18.6%、となっています。

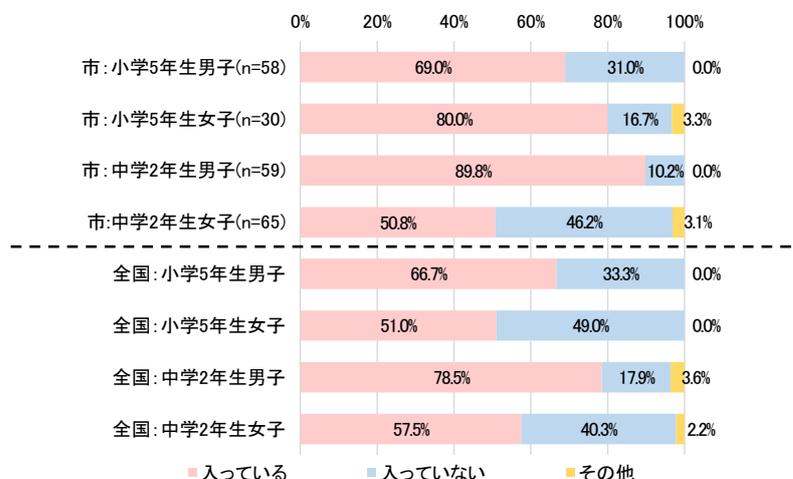
小学5年生は「地域のスポーツクラブに入っている」と「入ったことがない」がともに 34.2%となっており、中学2年生は「学校の運動クラブ活動・運動部活動に入っている」が 64.8%、次いで「入ったことがない」が 19.5%となっています。

「入っている(学校の運動クラブ活動・運動部活動に入っていると地域のスポーツクラブに入っているの合計)」の割合は、市の小学5年生男子が 69.0%(全国は 66.7%)、小学5年生女子が 80.0%(全国は 51.0%)、中学2年生男子が 89.9%となっており、いずれも全国と比べて高くなっています。一方、市の中学2年生女子が 50.8%(全国は 57.5%)、となっており、全国と比べて低くなっています。



	小学5年生		中学2年生		全体	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
学校の運動クラブ活動・運動部活動に入っている	26	22.8%	83	64.8%	109	45.0%
地域のスポーツクラブに入っている	39	34.2%	6	4.7%	45	18.6%
入っていたけどやめた	9	7.9%	12	9.4%	21	8.7%
入ったことがない	39	34.2%	25	19.5%	64	26.4%
その他	1	0.9%	2	1.6%	3	1.2%
合計	114	100%	128	100%	242	100%

【国の調査との比較】※



※ スポーツ庁 令和6年度運動能力・全国体力 運動習慣等調査報告書(令和7年9月10日時点)より
https://www.mext.go.jp/sports/content/20241217-spt_sseisaku02-000039139_02.pdf

問9 入っていたけどやめた理由は何ですか。(〇は3つまで)

全体をみると、「勉強や習い事などが忙しくなったから」と「その他」がともに17.2%と最も多い。

「その他」は、「引越したから」、「クラブがなくなったから」、「自分には向いていないと思った」などの回答がみられました。

	小学5年生 (n=9)	中学2年生 (n=12)	全体 (n=21)
いっしょにスポーツや運動をする仲間がやめたから	0.0%	15.8%	10.3%
勉強や習い事などが忙しくなったから	22.2%	15.8%	17.2%
楽しくなくなったから	22.2%	10.5%	13.8%
疲れるから	11.1%	15.8%	13.8%
上手くなれなかったから	33.3%	0.0%	10.3%
仲間といっしょに活動するのがいやだから	11.1%	0.0%	3.4%
けがをしたから	11.1%	0.0%	3.4%
指導者がいやだから	22.2%	5.3%	10.3%
親に止められたから	11.1%	0.0%	3.4%
特にない	11.1%	15.8%	13.8%
その他	33.3%	10.5%	17.2%

	小学5年生 (n=9)		中学2年生 (n=12)		全体 (n=21)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
いっしょにスポーツや運動をする仲間がやめたから	0	0.0%	3	15.8%	3	10.3%
勉強や習い事などが忙しくなったから	2	22.2%	3	15.8%	5	17.2%
楽しくなくなったから	2	22.2%	2	10.5%	4	13.8%
疲れるから	1	11.1%	3	15.8%	4	13.8%
上手くなれなかったから	3	33.3%	0	0.0%	3	10.3%
仲間といっしょに活動するのがいやだから	1	11.1%	0	0.0%	1	3.4%
けがをしたから	1	11.1%	0	0.0%	1	3.4%
指導者がいやだから	2	22.2%	1	5.3%	3	10.3%
親に止められたから	1	11.1%	0	0.0%	1	3.4%
特にない	1	11.1%	3	15.8%	4	13.8%
その他	3	33.3%	2	10.5%	5	17.2%

自由意見

クラブチームを立ち上げて欲しい
私は、毎週金曜日にプールがあってその日ぐらいしか 30 分以上運動ができていないので夏休みに入り、家に引きこもることが多くなるのでプールに行ったりして運動をしっかりとりたいです。
体育の水泳で日焼け止め OK でかたにタオルをかけていいようにしてほしい
剣道をちゃんと指導できる指導者をつけてほしいです。
これからもいろいろなスポーツにとりくみたい
バスケットを習いたい
色々なスポーツを体験してみたい
中学校の部活は存続してほしい。そのために指導者(先生など)には手厚い手当を支給してほしい。善意やボランティアといった言葉で片付けてはいけないと思う。部活動がなくなればスポーツ人口は減少し、日本のスポーツは衰退していくと思います。
とにかく楽しいです！

3 スポーツ関係団体アンケート調査結果

調査票の発送・回収

発送・回収等の概要

①対象者	羽咋市内のスポーツ各種協会 28件 障がい者関連団体 3件
②実施期間	2025年9月12日～9月30日
③配布・回収方法	調査票を郵送またはメールで送付 郵送・メール・FAXで回収
④回収状況	16件(回収率51.5%)

調査結果

【スポーツ施設の課題や改善点について】

活動していくうえで、どの施設に課題がありますか。(設備・運営等)	どのように改善すればよいですか。
競技場そのものがない	誰もが集える陸上競技場があると良い
冷暖房設備、使用予約	設備工事、施設予約のシステム化・アプリの開発
眉丈台地スポーツ広場に現在建っている仮設住宅を撤去して元に戻す際、大人一面分の人工芝の競技場にしてほしい。人口ピッチ(グラウンド)ができると、中高校生や大学一般などの利用も多く見込まれ、市内の宿泊施設と連携して大会の実施による交流人口の拡大、市内宿泊施設やお店にお金も落ちることの経済効果も見込まれる	日本サッカー協会の施設整備助成金の活用
夏場の体育館内の気温	体育館のエアコン設置
大きな大会開催に向けた市内グラウンドゴルフ場のホール増設	シルバーセンターの会員にお世話になっており、会員が高齢者である。会員のご協力と各種の機械等の力が必要である
施設・設備の老朽化、破損、故障、空調設備がない。観客席が少なく、大会等のイベントに使いにくい	リフォーム、建替え
武道館の窓に網戸がないため虫が入る。また、冷房がないため夏は窓を開けている。冬は更衣室の外の扉から風が入ってくるので寒い	施設の大規模改修
千里浜公民館に暖房設備はあるが、冷房設備がない。夏は備え付けの扇風機で対応していますが、参加者の年齢層も高齢の人が多いため冷房設備があれば良いと思います。羽咋体育館のホールが狭いので拡張できれば良いと思う	資金の問題もありますが、市としての大規模な体育施設を新設してもらえればよいと思います
(スポーツの種目によって)市内の施設は利用していない	

【組織におけるスポーツ振興に関する課題について】

活動を継続していくうえで課題内容は何ですか	課題を解消するためには何が必要ですか。
競技人口の減少、指導者後継	活動していることをもっと広める。活動しやすい環境づくり
郡市中学校相撲、子ども相撲大会の再開	規模を小さくして行うことはできないだろうか
協会員拡大	協会員一人ひとりの声かけ
協会を世話する役員を育成、女性の会員を増やす	
会員数の確保	教室の知名度アップ、各スポーツチームのPR
人口が少なくなった組織の一本化	
協会の会員が減少しているため、会員が増えるような活動をしていきたい	例えば入会すると、施設の利用料金が減免になるとか。大事なものは入会してもらってから、楽しいを思ってもらえる活動だと思う。マスターズ大会への参加や会員の親睦も必要
競技人数の減少、大会等への参加人数集めが大変	競技の周知
少子高齢化による競技人口の減少、小学校で全国出場レベルの選手がいても、中学校で精神的・技術的に伸ばしてくれる先生がいない	羽咋中学校に剣道を教えることができる教師の不在の解消(羽咋出身の剣道を教えられる先生はたくさんいるが、他の市町にいる)
ゴルフ人口の拡大、若い女性、ジュニアが全くいない。市代表となる競技ゴルフ辺り出場者が限られてしまい、選手に負担に負担をかけてしまう。競技ゴルフをする人が少ない	個々のスポーツと捉えられている、又、ゴルフに対する敷居が高すぎるイメージが強い ジュニア世代の育成は地域クラブを作る 指導者を育成、競技ゴルフの楽しさ
太極拳の運動を通じて参加者の健康維持。体の柔軟性を求め、病気にならないような人を増やす(精神面も)	太極拳参加者を増やす
一番はスキー自体の愛好者の減少と考える	市体にも種目はないため、どの程度市内に愛好者がいるかわからない 広報等で各団体の県体希望者募集
会員の確保	クレーだけでいうと、銃を持つハードルが高い。危ないと思われる

【羽咋市のスポーツが発展するための改善点・支援策について】

羽咋市スポーツ振興のために改善すべきことは何ですか	どのように改善すればよいですか
使いやすい環境や設備を整える	スポーツイベントの開催。専門的な人や選手をよんでイベントを実施
子ども達(小学生)が参加できる相撲、バレーボール、ソフトボール、卓球協会を開催することが進行につながると思います	先生への負担をかけず、子供会育成会が主となり開催(協会を含め)
各種目の競技ができるようにまずは施設の改修をすすめてほしい。(例えば野球場)	
老朽化した施設の更新・改修	計画的に優先順位をつけて改修していく必要がある
スポーツをする場所の一定額の利用料の補助。練習にかかるものだけ	
プロスポーツチームの試合ができる施設、イベントがない。プロチームの合宿地になれないか。また、アマチュアでも全日本レベルの試合ができないか。	まずは市・県レベルの市主催の大会を増やしていく スポンサーはつかないかもしれないが、地元企業などの協賛も得るように努力 全国レベルの大会誘致

プロスポーツ選手が少ない。全日本レベルで戦える選手、団体が少ない	プロレベルの大会或いはジュニア教室など
何の運動でも市民全員が何かの運動に参加できるように人員を増やす	市の職員又は関係者自らがスポーツを体験し、市民にスポーツの良さの実感を知らせてほしい
難しいがフラッグシップになるスポーツを育てる	今ある特色のあるスポーツは推していないでは。セーリング、剣道、柔道など
団体や活動が知られていない	

【その他スポーツ振興施策における市に対する要望】

- ・ 冬季用の練習にもなるのでシミュレーションゴルフができる施設があると良い
- ・ 積極的なスポーツ大会の誘致とそれができる施設の確保
- ・ 市をあげてのスポーツ振興都市の宣言と活動
- ・ 各施設の使用予約システム、使用状況が把握できるようにしてほしい。いしかわ施設予約サービスが全く意味がないため、掲載するのであれば、しっかり管理すべき
- ・ 各々のスポーツレベルが低下していると感じる。地域をあげてレベルアップを図らなければならない。ジュニアクラブの育成に対し、協賛してくれる企業や個人などを募集する。中学校の部活動問題も上記同様。そして指導者育成
- ・ 基礎体力を図るイベントや計測器が常設だと良いかも

【障がい者関連団体アンケート調査結果】 ※羽咋郡市ろうか協会からのみの回答

設問	回答
障がい者の方が運動やスポーツをするうえで、市の施設の課題や改善点は？	
どの施設に課題がありますか。(設備・運営等)	スポーツは好きだと思うが、健常者とコミュニケーションがとれないので、スポーツ施設には行こうと思わない。
課題を解消するためには何が必要ですか。	あさがおハウス(ろうあ者のみ)は1週間に1回スポーツできる。羽咋市から行っている人はいない。 ※羽咋のスポーツ施設がどうのこうのではない
貴組織において、障がい者スポーツ活動における課題は？	
障がい者スポーツ活動における課題はありますか。	コミュニケーションをとる方法があれば良い。手話など。ゲートボールには手話ができる人がいる
課題を解消するためには何が必要ですか。	競技において、手話ができる人が必要。わかるように手で表示することが必要。
その他、障がい者スポーツ全般における市に対する要望等があればお聞かせください。	
対等にスポーツができるようにならないとだめ。 スポーツをやらないのはコミュニケーションがとれないから。 身振り手振り、短い表示などで意思疎通を図る。 障がい者に配慮できる人がいたら良い。手話ができる人がいれば良い	

4 羽咋市スポーツ推進審議会

(1)羽咋市スポーツ推進審議会条例

羽咋市スポーツ推進審議会条例

(設置)

第1条 スポーツ基本法(平成23年法律第78号。以下「法」という。)第31条の規定に基づき、羽咋市スポーツ推進審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(任務)

第2条 審議会は、法第35条に規定するもののほか、羽咋市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査、審議する。

- (1) 法第10条第1項に規定する地方スポーツ推進計画に関すること。
- (2) スポーツの指導者の養成及びその資質の向上等に関すること。
- (3) スポーツの施設及び設備の整備等に関すること。
- (4) スポーツ事故の防止等に関すること。
- (5) 小中学校における体育の充実に関すること。
- (6) スポーツの団体育成、振興のための事業への支援等に関すること。
- (7) スポーツ行事の実施及び奨励に関すること。
- (8) 野外活動及びスポーツ・レクリエーション活動の普及奨励に関すること。
- (9) 前各号に掲げるもののほか、スポーツ文化の推進に関すること。

(組織)

第3条 審議会は、10人以内の委員で組織する。

2 審議会に特別の事項を調査させるため必要があるときは、専門委員を置くことができる。

(事務局)

第4条 審議会の事務局は、教育委員会生涯学習課内に置く。

(委員)

第5条 審議会の委員(以下「委員」という。)は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱する。

- (1) スポーツに関し、識見を有する者
- (2) 公募による者

(3) 関係行政機関の職員

(任期)

第6条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 専門委員は、特別の事項に関する調査を終了したときは、退任するものとする。

(会長及び副会長)

第7条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれらを定める。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行後最初に委嘱される委員の任期は、第6条第1項の規定にかかわらず、令和9年3月31日までとする。

(2)委員

羽咋市スポーツ推進審議会委員名簿

No.	役職名	氏 名	団体名・役職
1	会長	久保 雅裕	スポーツ協会 会長
2	副会長	堀 和秀	公民館連絡協議会 会長
3		田多 文弥	スポーツ推進委員 委員長
4		藤井 裕代	スポーツ推進委員
5		河合 仁美	社会教育委員
6		宮下 裕樹	スポーツ協会 副会長 (羽咋市中学校体育連盟)
7		浜田 良男	バモスはくいスポーツクラブ 理事長
8		中島 一明	市教育委員会教育次長
9		政氏 祥代	市民福祉部参事
10		滝口 一彦	公募

(3)開催記録

第 1 回	日時	令和7年7月2日(水) 19:00~20:30
	議題	教育長挨拶 委嘱状交付 議事 (1)羽咋市スポーツ推進計画について (2)審議会スケジュールについて (3)羽咋市のスポーツ環境について (4)市民アンケート調査について (5)スポーツ関連組織ヒアリングについて (6)スポーツ推進計画の施策体系について (7)スポーツ推進計画の数値目標について
第 2 回	日時	令和7年9月 18 日(木) 19:00~20:30
	議題	議事 (1)スケジュールについて (2)第1回スポーツ推進審議会 委員からの意見対応 (3)市民アンケート調査(16 歳以上)の結果 (4)市民アンケート調査(小中学生)の結果 (5)スポーツ推進計画の方針・施策体系 (6)次回のスポーツ推進審議会
第 3 回	日時	令和 7 年 12 月 23 日(火) 19:00~20:30
	議題	議事 (1)第 1 期羽咋市スポーツ推進計画(素案)について (2)パブリックコメントの実施について

5 パブリックコメントの実施

第 1 期羽咋市スポーツ推進計画を策定するにあたり、市民の皆さまから広くご意見をお聞きするため、パブリックコメントを実施しました。

■パブリックコメント実施概要

- 実施時期:令和 8 年 2 月 2 日~2 月 27 日
- 計画書:第 1 期羽咋市スポーツ推進計画(素案)、概要版(素案)
- 閲覧場所:市ホームページ、市役所市民談話室、各公民館、羽咋体育館
- ご意見の提出方法:持参、郵送、FAX、電子メール

問い合わせ先

羽咋市教育委員会スポーツ推進室

(羽咋体育館内)

〒925-0027 石川県羽咋市鶴多町亀田17番地

Tel 0767-22-3312 Fax 0767-22-9360